

まんが

かんのんさま



INSTITUT FÜR TIBETOLOGIE
UND BUDDHISMUSKUNDE
UNIVERSITÄT WIEN

4606-C

29/37

導 高橋 辰和
画 加藤 直

かんのんさま

大道社

こどもの本 シリーズ

- おしゃかさま ￥300
- 久遠の仏さま ￥300
- かんのんさま ￥300
- おじぞうさま ￥400
- 地獄と極楽 ￥300
- 奈良の大仏さま ￥300
- だるまん ￥200
- お大師さま ￥300
- 本願寺さん ￥200
- めぐみ ￥200
- えほん ほうねんさま ￥300
- えほん しんらんさま ￥300
- えほん 石童丸 ￥300
- 英文 おしゃかさま ￥400

★送料各冊 ￥200 宛

東京都千代田区飯田橋1-1-6 大道社

発行 二宮男

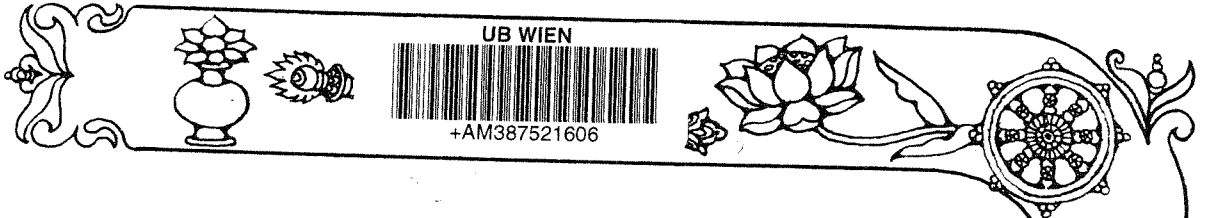
〒102 振替 東京 8247

TEL 03:262:5944



教育まんが

かんのんさま



UB WIEN
+AM387521606

はじめに

その日その日の生活のなかで、心をこめてかんのんさまをおがみ、かんのんさまにおねがいすることによって、子どもは心の安らぎと、生きる勇気をさすけられています。

私どもの父母も、またそのさきの父母も、そして、はるかとおいむしむかしの祖先も、かんのんさまをひたすら信じ、かんのんさまのおまもりをうけて生きてきた。かんゆたかな人生をきりひらいてきた。かんのんさまは、いつも私どもの身近においでになります。

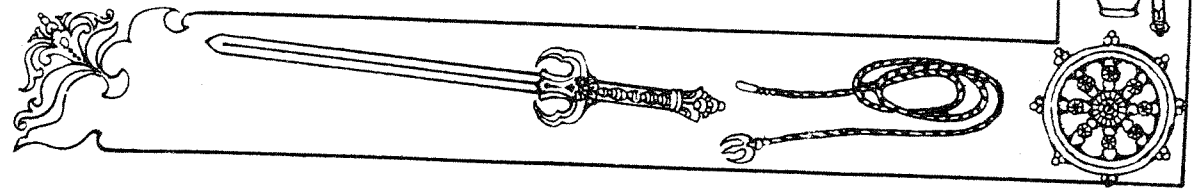
このようなふかい縁から、かんのんさまにちなんだかずかずのお話が出来、春・夏・秋・冬どおりにふれて、かたりつがれてきました。香りたかいこれらのお話には、私ども日本人びとの心の声がいきいきとつたえられています。

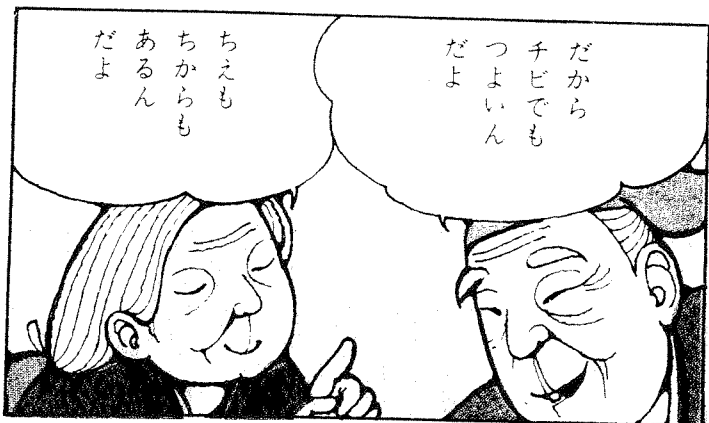
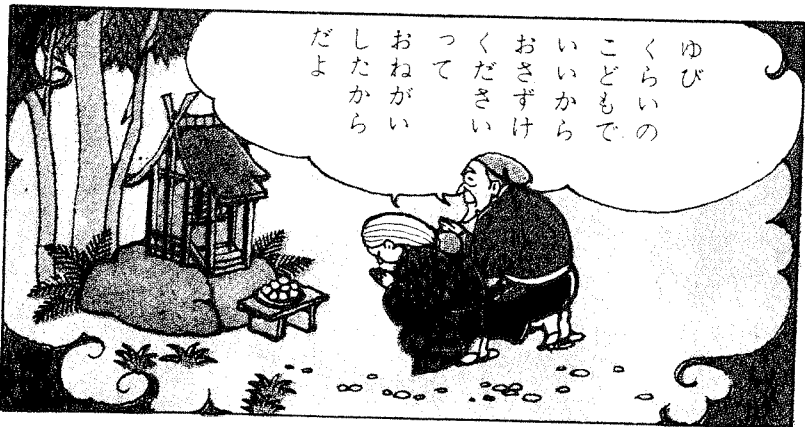
この本には十篇をえらんで、おさめてあります。おかむ心・ねかう心がどんなにとうとく、大切であるかをしって、いっそうこの心をやさないそたてていきたいものです。

もくじ

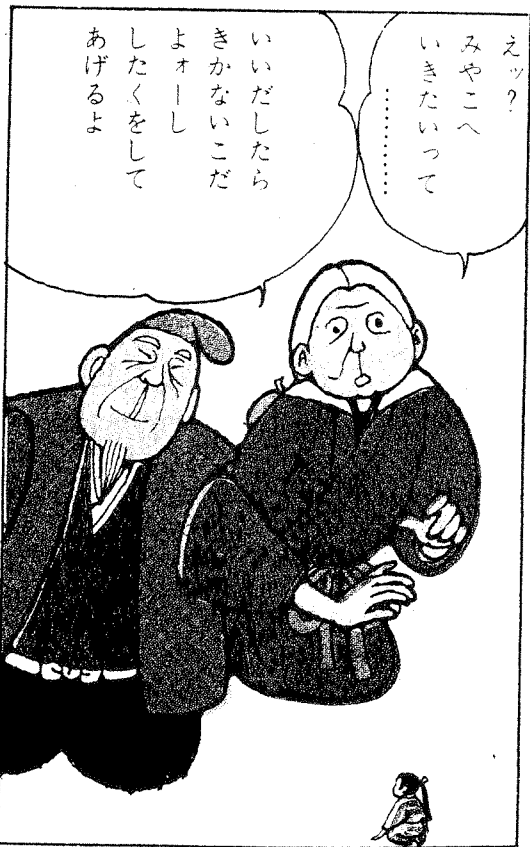
ほうけんいっすんほうし	2
わらしべ長者	11
かめのおんがえし	20
ふだらく山ー(かんのんさまのおすまい)	24
こぶがとれた!!	26
かがやく星下りー(心のきれいな人は)	31
おさと千日まいりー(心の目をひらけ)	36
さいわいち	40
東に西にー(かんのんさまのお心)	44
汗かきかんのんさま	54
かんのんさまが温泉に	61
ひとすじの道	
お水取り	
かいせつ	

監修 高橋良和
画 加藤直





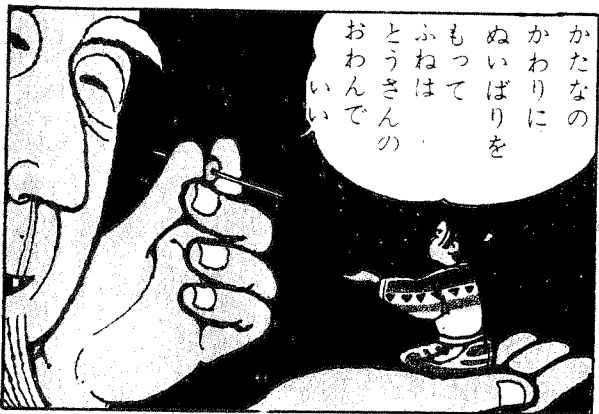
いっすん
ぼうしは
かんがえる
いろんな
ことを
しり
たい
な



えッ?
みやこへ
いきたいって
.....
いいでしたら
きかないこと
よーし
したくをして
あげるよ



そうだ
みやこへ
いって
みることだ
.....
とうさん
かあさん
おねがいで

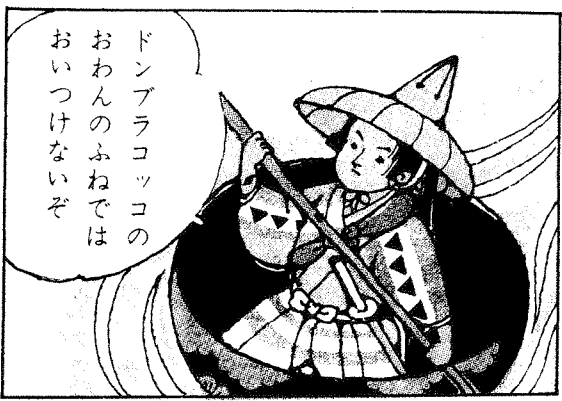
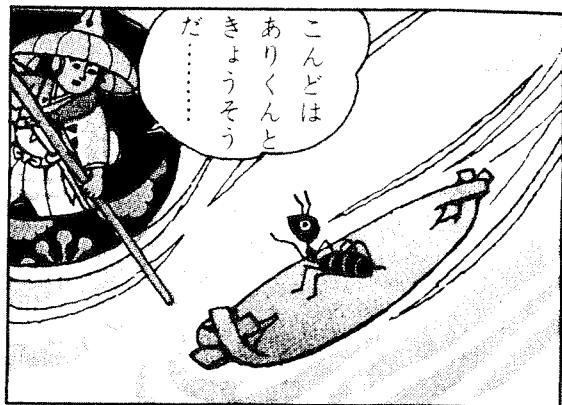
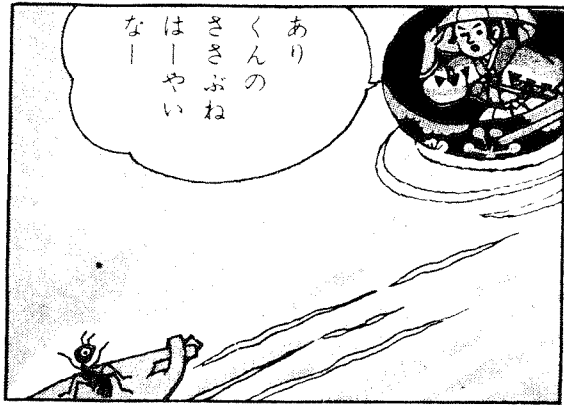


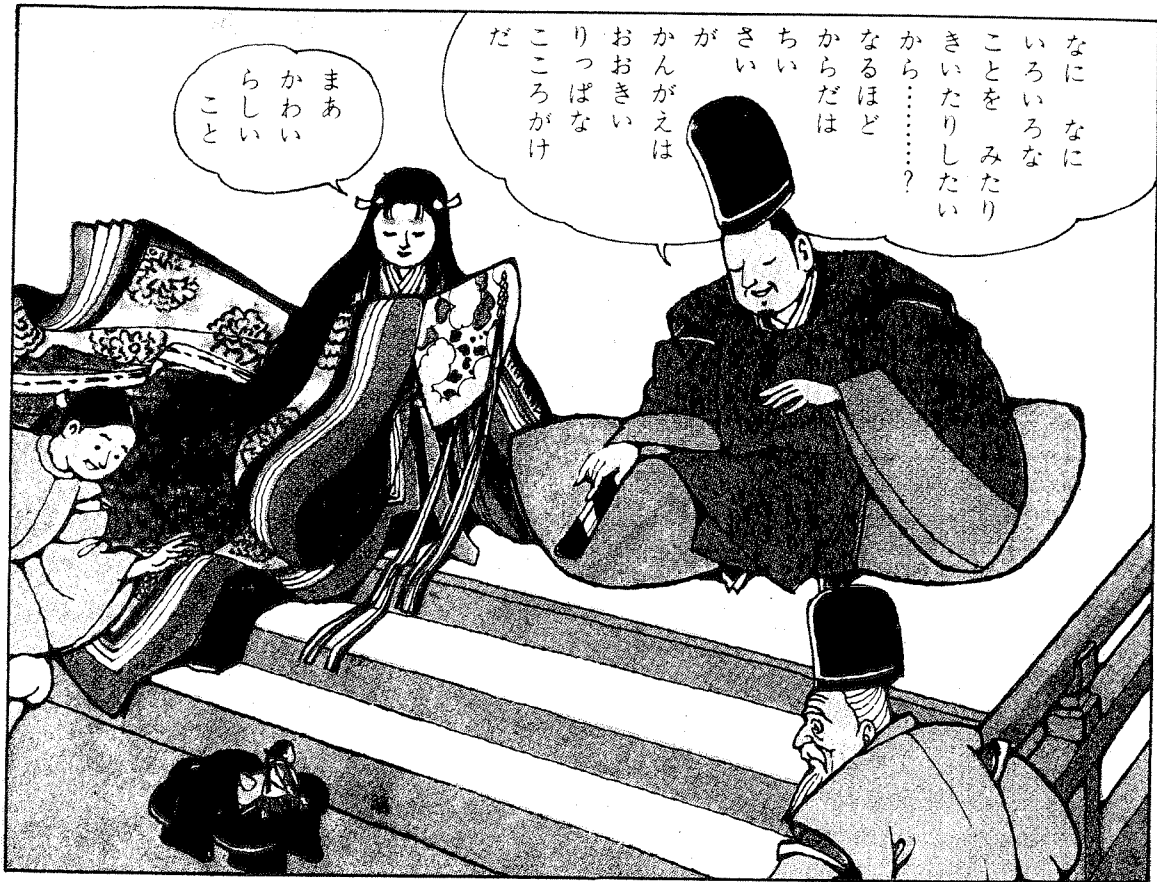
かたなの
かわりに
ぬいばりを
もって
ふねは
とうさんの
おわんで
いい



ああ
すっかり
りっぱになつた
さあ げんきで
いっておいで

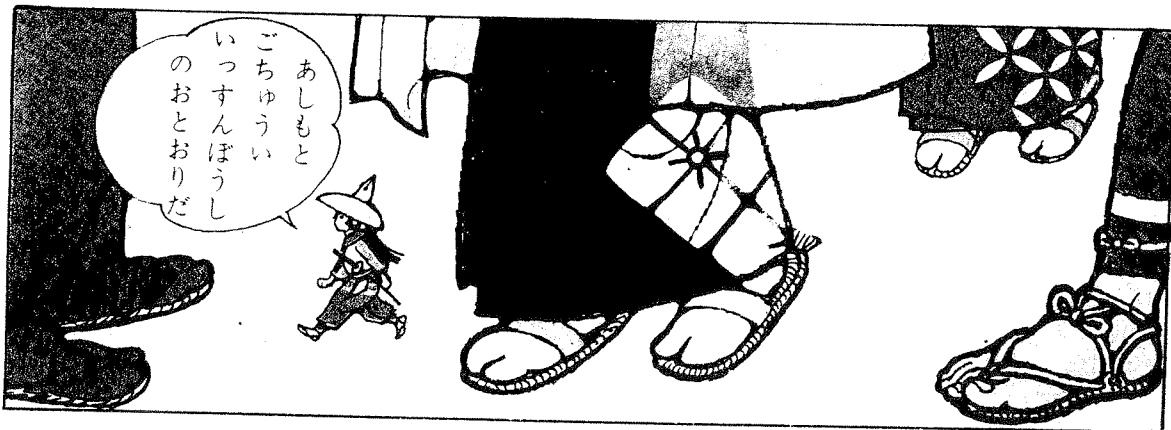
いって
まいりませ
しんばい
しないで
まってね



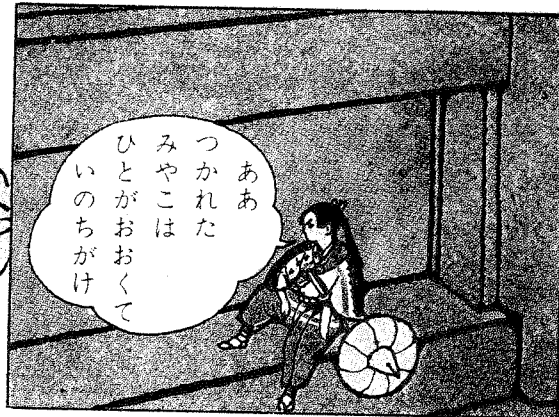


なに なに
いろいろな
ことを みたり
きいたりしたい
から……？
なるほど
からだは
さい
がい
が
かんがえは
おおきい
りっぱな
ところがけ
だ

まあ
かわい
らしい
こと



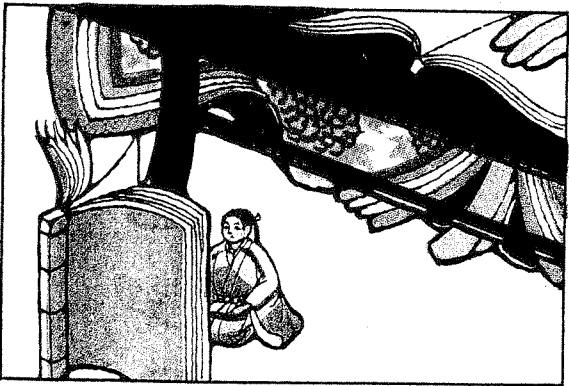
あしもと
ごちゅうい
いっすんぼうし
のおとおりだ



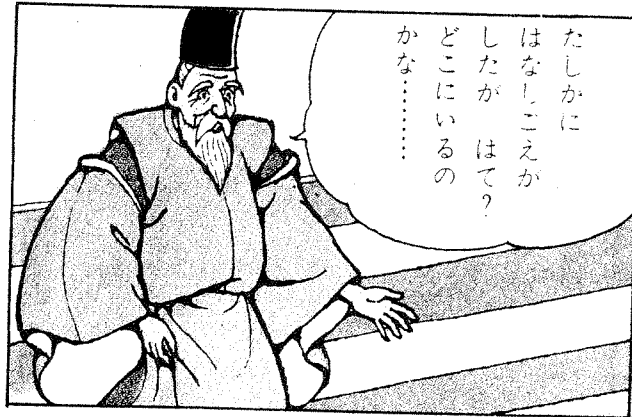
ああ
つかれた
みやこは
ひとがおおくて
いのちがけ



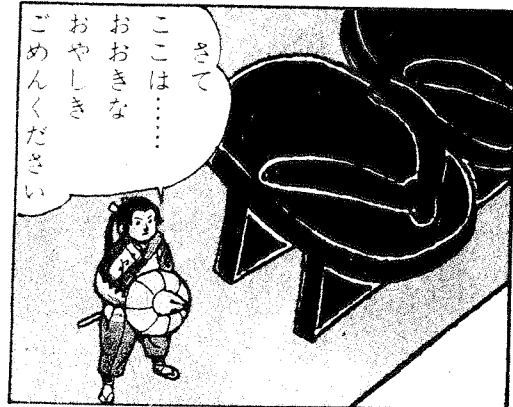
ひは
くれ
かかる おなかは
すく いっすんぼうしは
なきたくなる……
『げんきを おだし』と
いっている とおくの
とうさん かあさんの
にこにこがおが めにうかぶ
いっすんぼうしは あるきだす



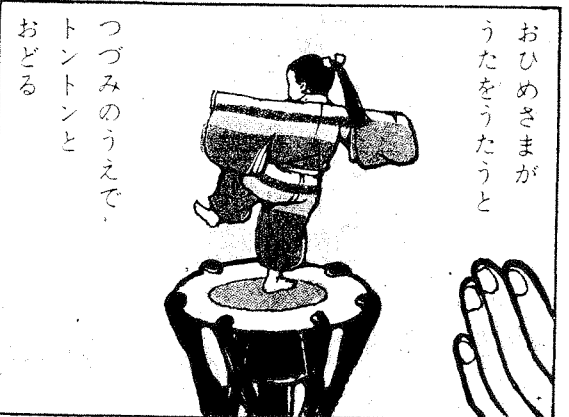
わたしと
いっしょに
べんきょうを
しましょうね



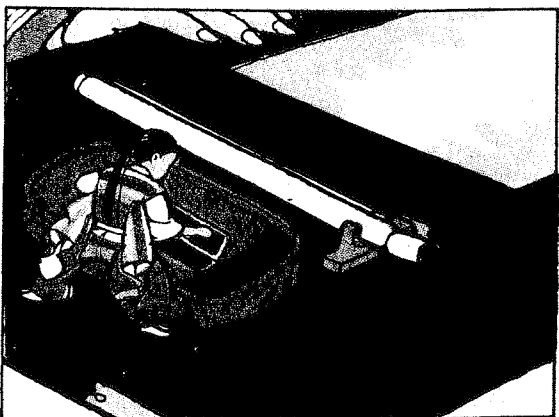
たしかに
はなしこえが
したが はて？
どこにいるの
かな……



さて
ここは……
おおきな
おやしき
ごめんください



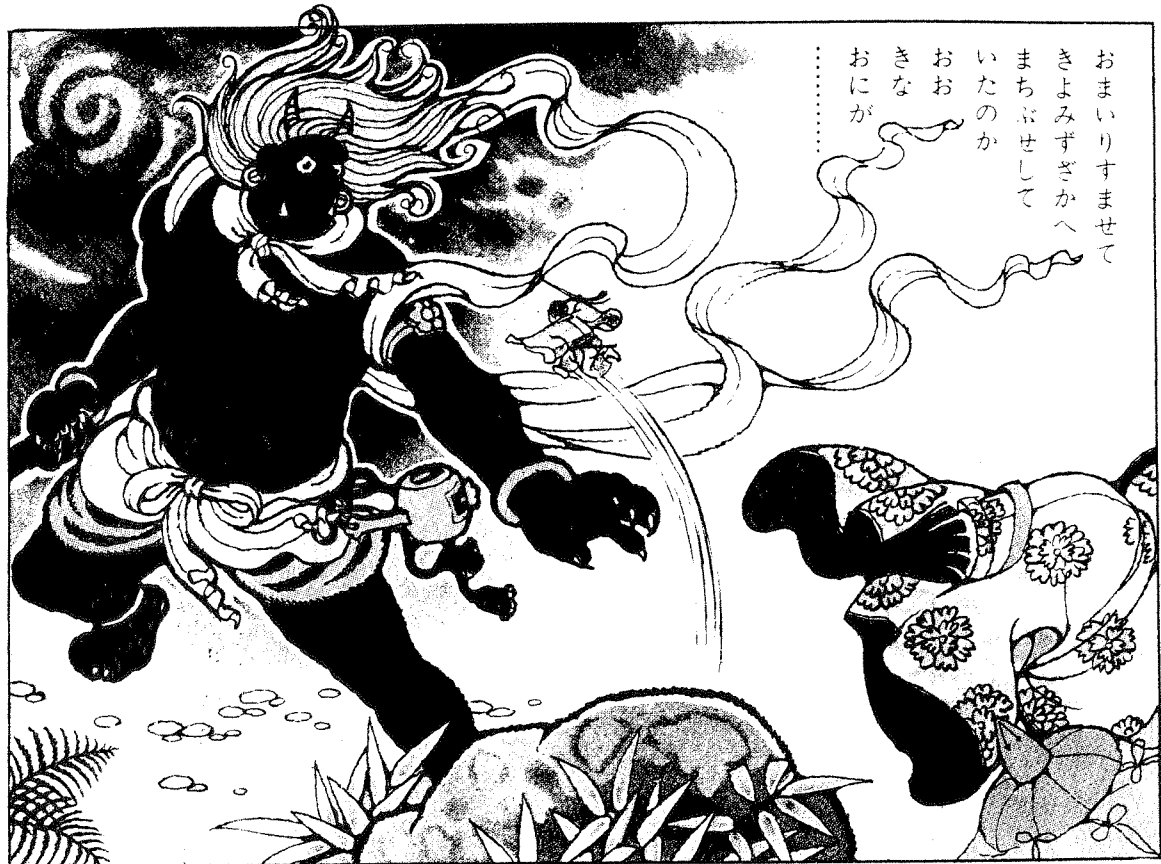
おひめさまが
うたをうたうと
つづみのうえで
トントンと
おどる



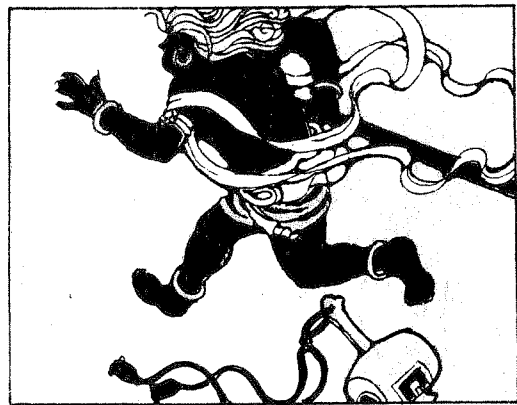
あッ！
いました
いました
ながいきは
するもの
こな ちいさな
こどもはじめて
みた……



ハイ
ここに
います！！
ほくこの
おやしきで
はたらか
せてくだ
さい

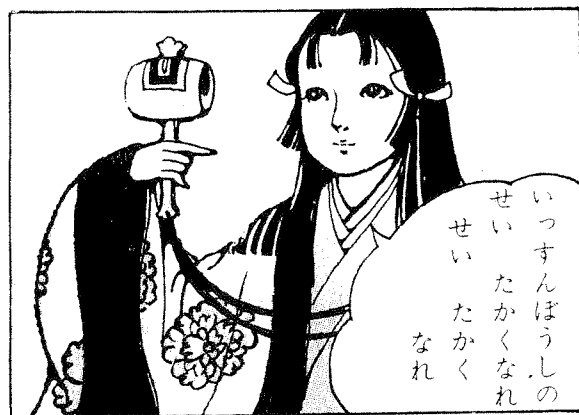


おまいりすませて
きよみずさかへ
まちぶせして
いたのか
おほ
きな
おにが



イタタタ
とてもかなわぬ

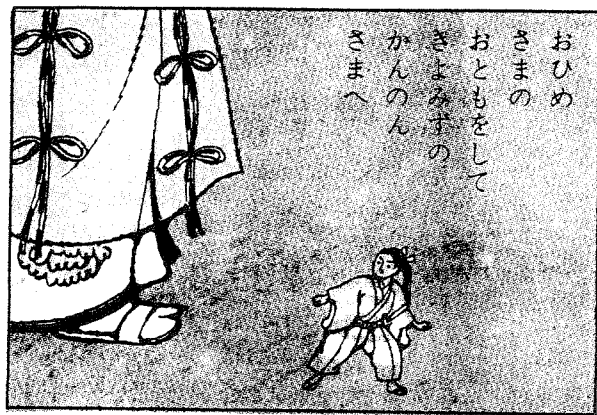
おひめさまみて とびかかる
いっすんぼうしはかたなをぬき
おにのくちへおどりこむ……
チクリチクリとおなかをさされ
いっすんぼうしをほきだして
おにはびつくり にげていく



いっすんぼうしの
せい たかくなれ
せい たかく
なれ



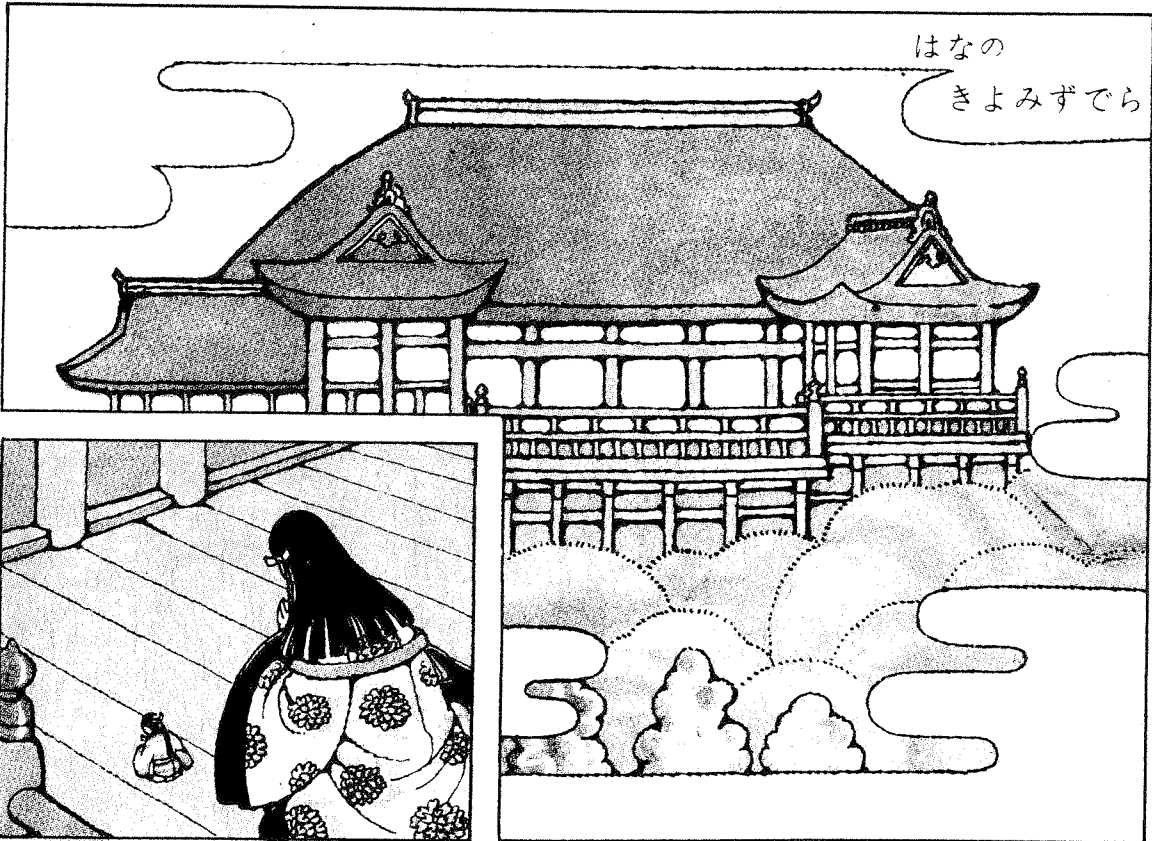
おにの
おすれもの
うちでのこづち
なんでも
のぞみが
かなうと
いうが



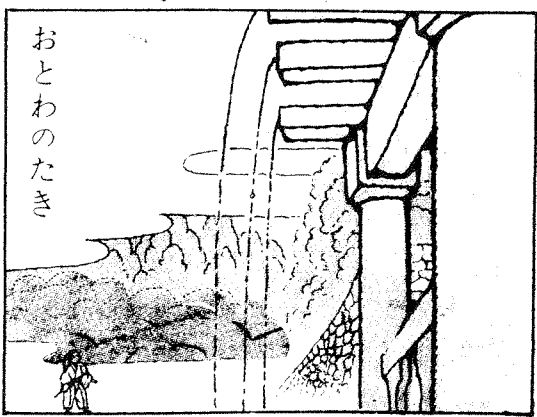
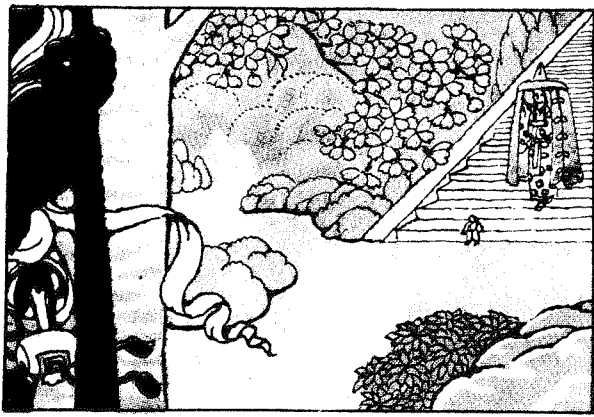
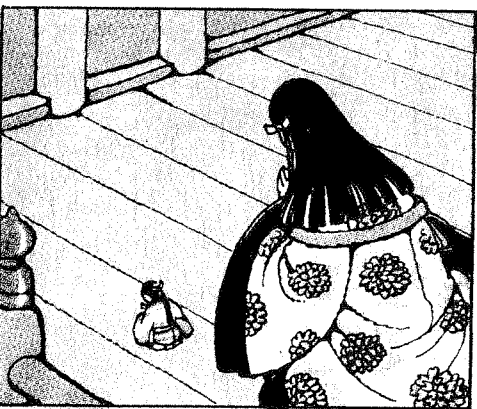
おひめ
さまの
おともをして
きよみずの
かんのん
さまへ



きょうは
かんのんさまへ
おまいりのひ
きよみずの
おてらへ
おまいりに



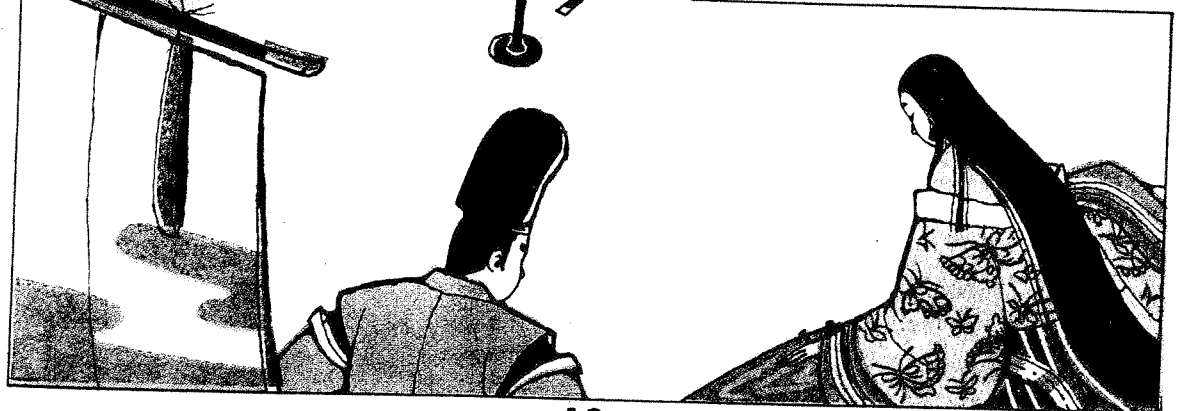
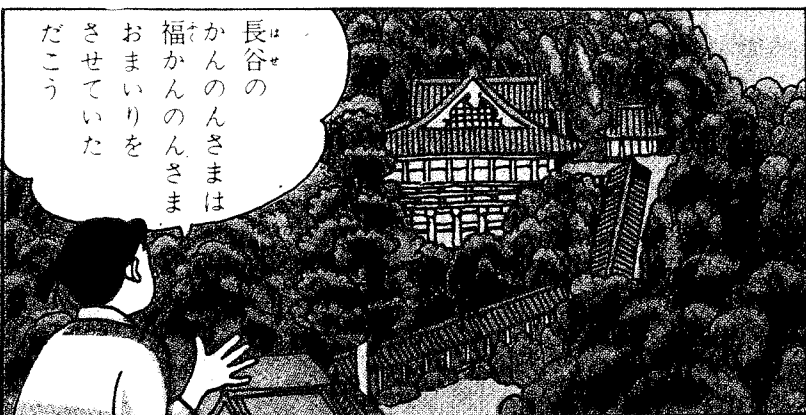
はなの
きよみずでら

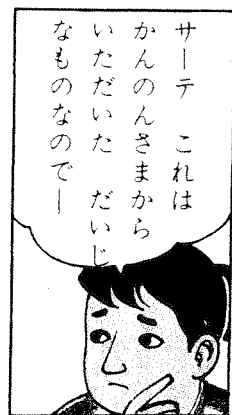
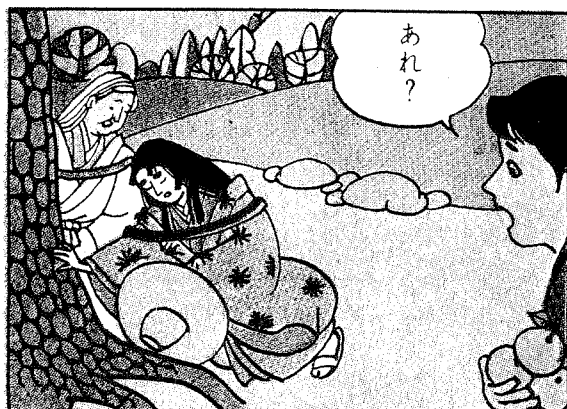
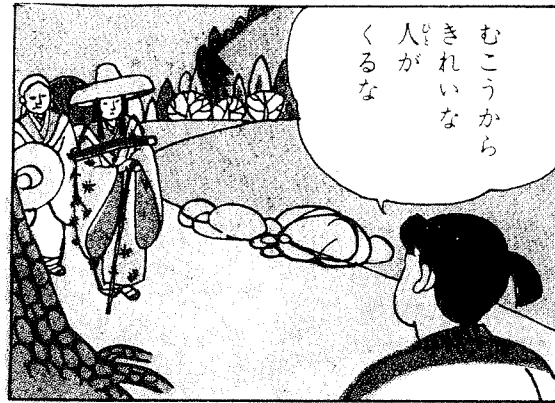


おとわのたき



じぶんではきがついていませんでしたが、このおところにはもう一つよいところがありました。たいそうしんじんぶかいころをもつておりました。あるひのこと、かんのんさまにおねがいでました。おねがいでました。



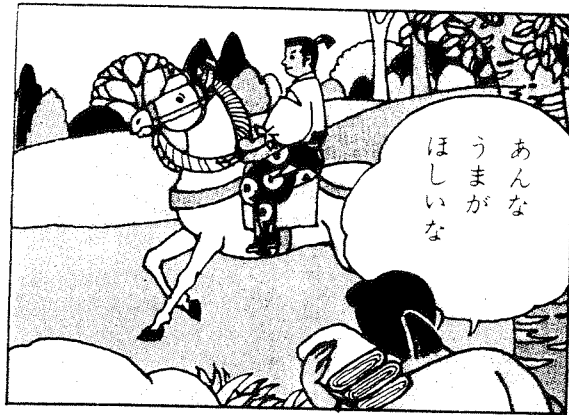




しめた！
めをあけた
こんどは
たつん
だよ



おれ
には
かんのん
さまがつい
ていて
くださる
うまをいき
かえらして
ください
なむ
かんのん
さま



あんな
うまが
ほしいな



これは
おどろいた
わらしべー
みかん三こー
きぬ三たん…
これこそ
かんのんさま
のゴリやくだ



ワアッ!!
かんのん
さまが
うまを
くださった
バンザイ



とうとう
しんで
しまった
にっぽん
一のうま
だったの
に……



これこれ
どうしたんだ
きゆうに!



このきぬ
二たんで
くらとくつわと
ふさに
とりかえて
ください
どれどれ
これは
りっぱな
きぬだ
とりかえ
ましよう



さあ……
これから
もっときれいに
かざりたてて
やるよ



はてな？……
おれが このうまが
ほしいなとおもったら
きゆうに あわをふいて
しんだ……
もしかすると
おれのうまに
なるのかも
しれない
ぞ



さあ
みやこへ
いこう



かつ
こう
よく
なった
ぞ
きん
ぷくりん
のくらと
あかいふさ
うまにも
いしようだ



よし！
これで
いいと



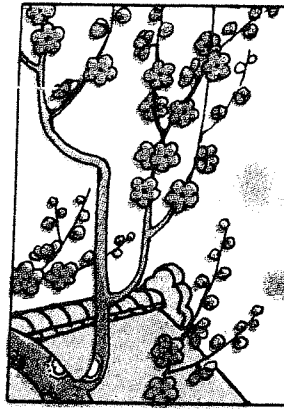
えッ？
しんだうまと？
……
よろしいとも!!
さあ きぬを
ください
もしもし
きぬ一たんと
そのうまと
とりかえて
くれませんか

おとこはうまをひいて みやこの
ちかくまできました ちようど
大きなやしきのまえにさしかかっ
たときです やしきのなかが
ざわざわとして おおぜいの人が
はしりまわっています みんな
いそがしそうです



いくさが
はじまる
のかな？

それからと
いうものは
なにをやっても
とんとんと
うまく
いききました



せつせと
はたらいて
お米も
たくさん
とれる
ように
なりました



おまえ
いうまを
もっているな
しゅじんが
うまを
さがして
いるところ
だ

なかへ
はいって
くれ



なるほど
これは
よい
うまだ
ゆずって
ほしい

くらも
ふえて
いき
ます

かしこい
およめさんも
できました



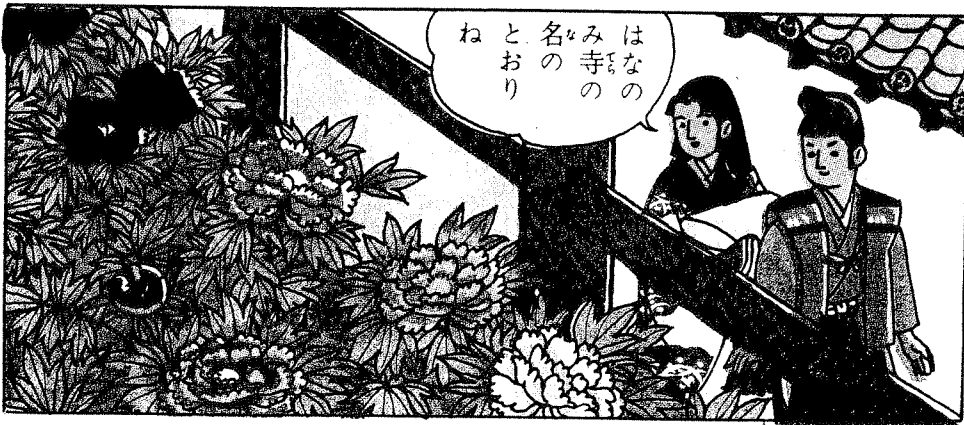
いくさに
でるからには
なにもいらぬ
このやしきと
そのうまを
しようかん
しよう
……
それに
よく
お米の
とれる
たんぼを
つけよう

はい！
しょうち
しました



長谷のかんのんさまは
福かんのんさま
しあわせがいっぱいのふたりは
かんのんさまへおれいまいりに
でかけました

はなの
み寺の
名の
とおり
ね



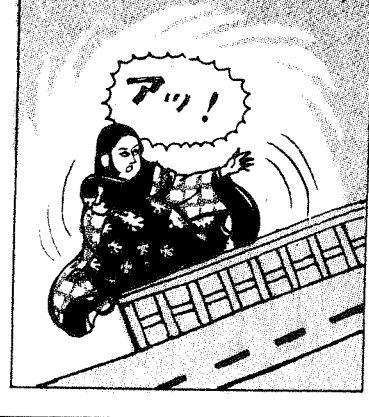
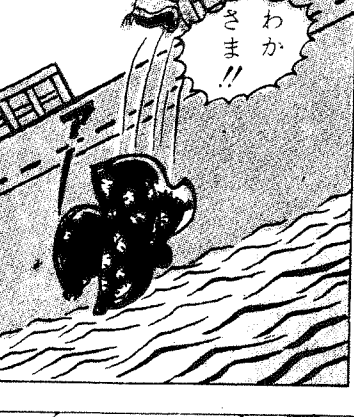
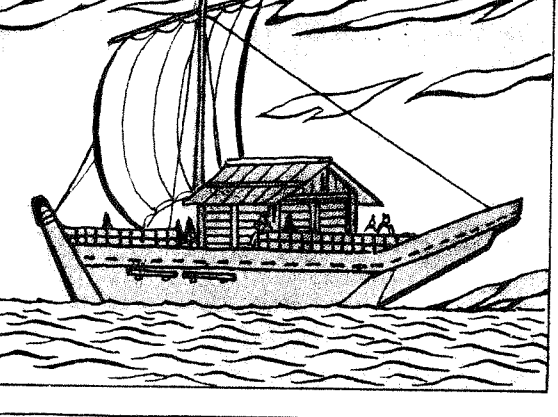
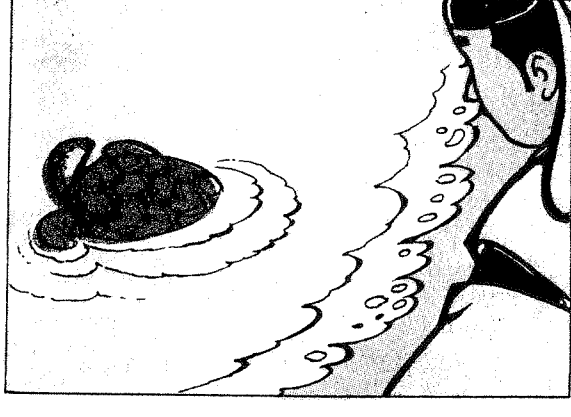
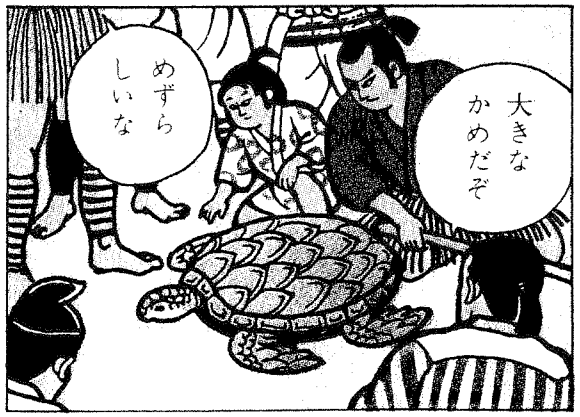
一ぼんの
わらしべから
みかん
そして
きぬ
つきが
うま
こんどは
とうとう
大きな
やしき

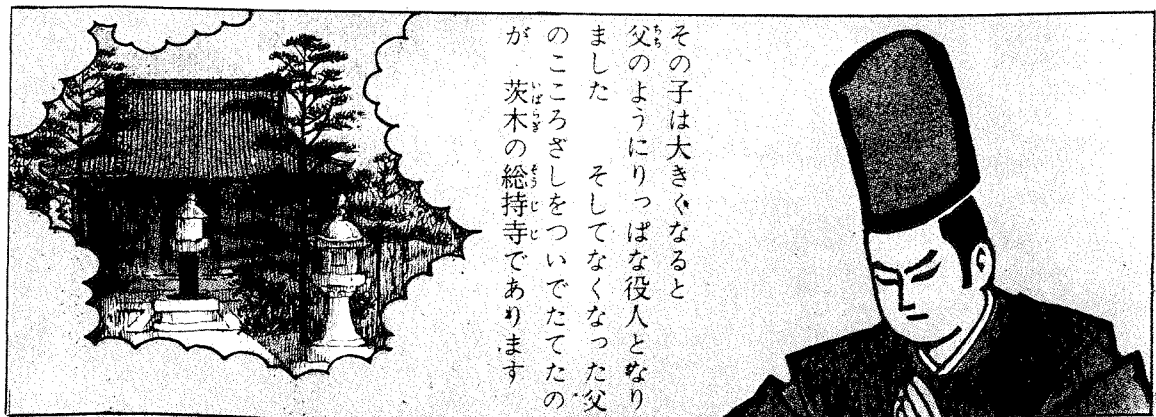
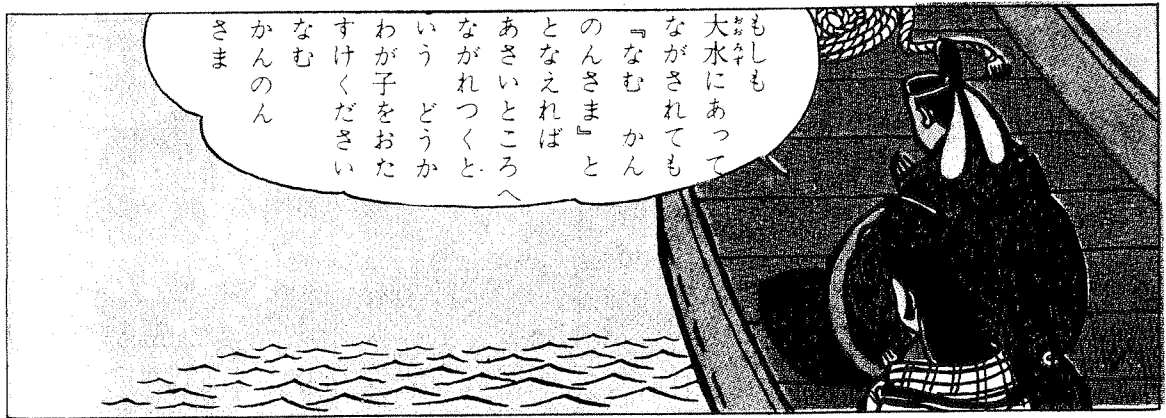
こんな
りっぱな
やしきにすめる
みぶんになるとは……
かんのんさま
ありがとうございます
ございます

一ぼんのわらしべから
おもわぬ かねもちに
なったおとこは 人びとから
『わらしべ長者』とよばれる
ようになりました

かめのおんがえし

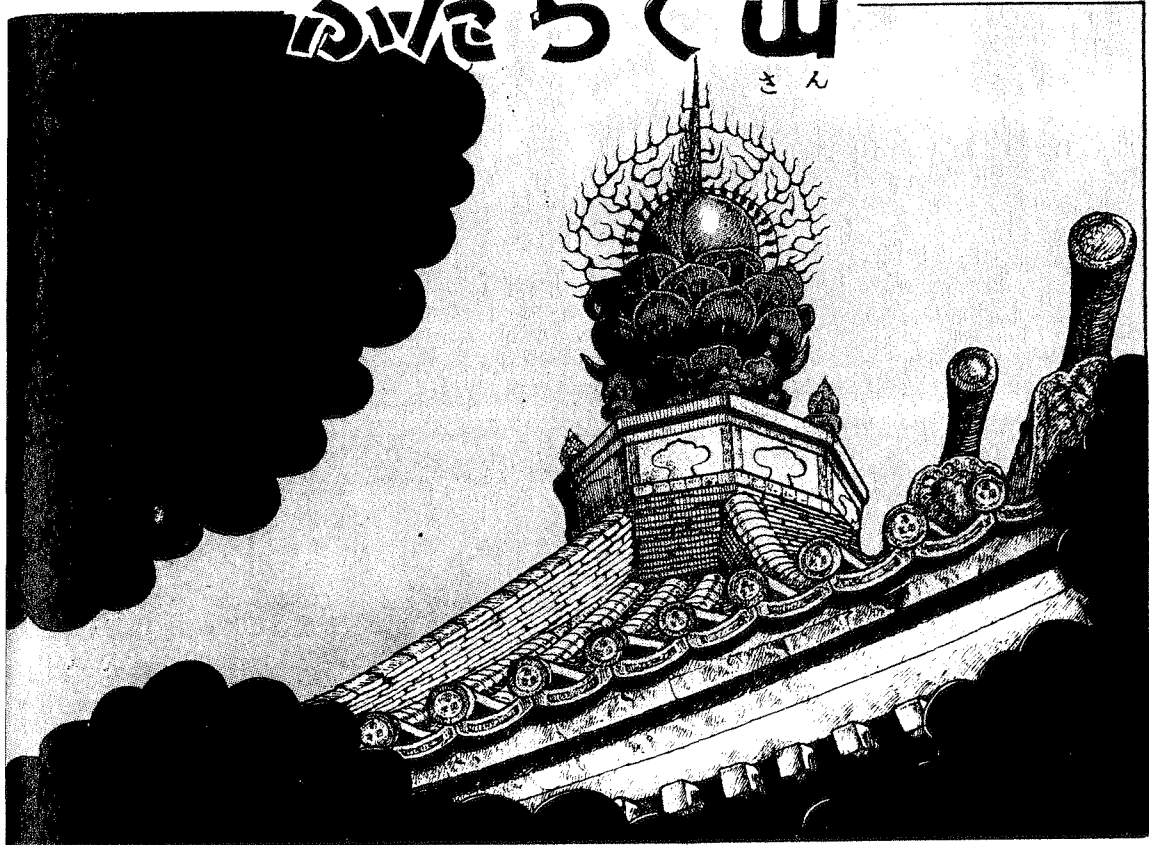
いまからかぞえて
一一〇〇年あまり
むかしみやこが
奈良から京都へと
うつり五〇年ほど
というころのこと
でしょうか
ときの天子さまの
おいつけで京都
から九州の大宰府
へむかう身分のた
かい役人があるま
した おさない
若君をつれていま
した





山くらくら

さん



南円堂の
かんのん
さまは
三つのお目と
八つのお手を
おもちになり



こまった
な
こまった
な

なでて
もだめ



おし
だめ



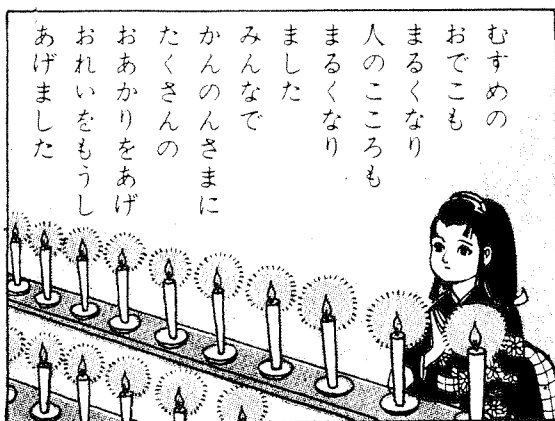
わたしたちから
くるしいことや
かなしいことを
とりさつて
くださる
かんのんさま
とききました
このこぶが
とれますように
おねがい
いたし
ましょう



なむ
かんのん
さま
ふつても
おまいりして
一年目のある日



こぶがとれた!!



むすめの
おでこも
まるくなり
人のこころも
まるくなり
ました
みんな
かんのんさまに
たくさんの
おあかりをあげ
おれいをもうし
あげました



もとの
とおりに
まるく
なつた

いっの
まにやら
こぶが
とれた
ぞ

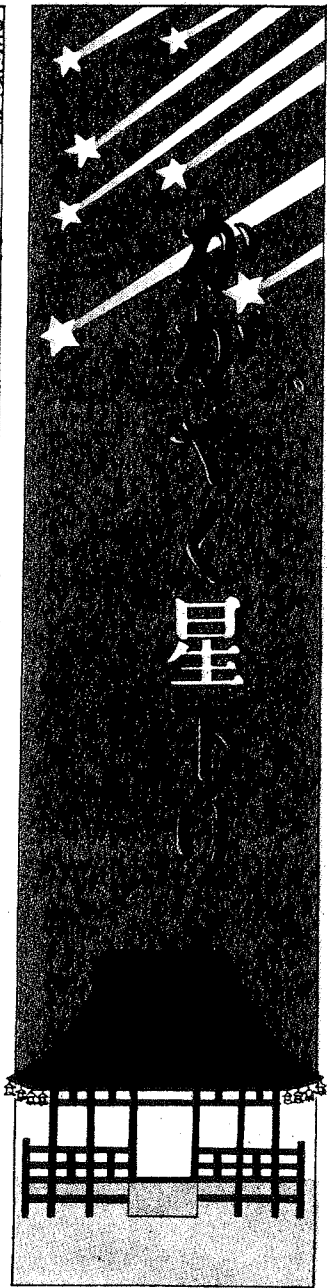
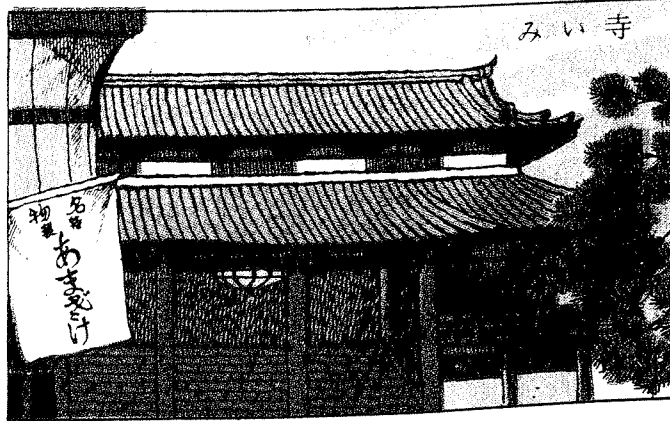
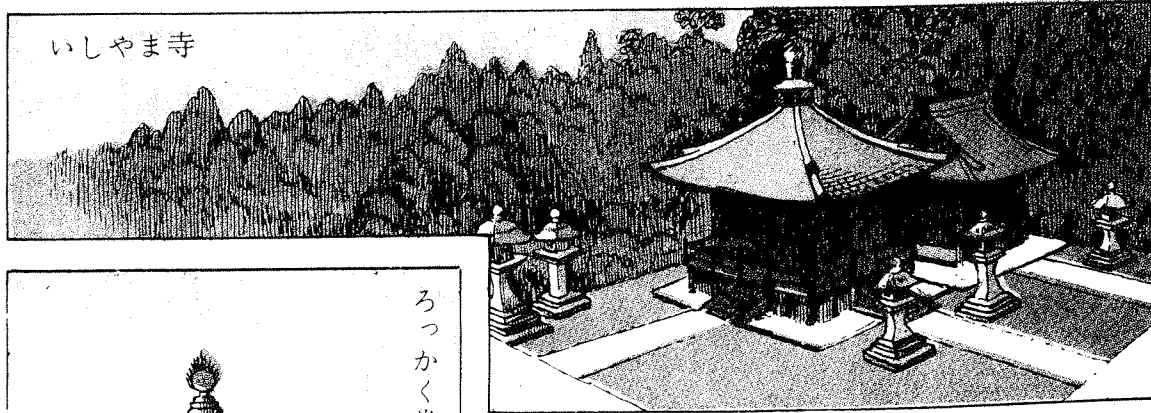
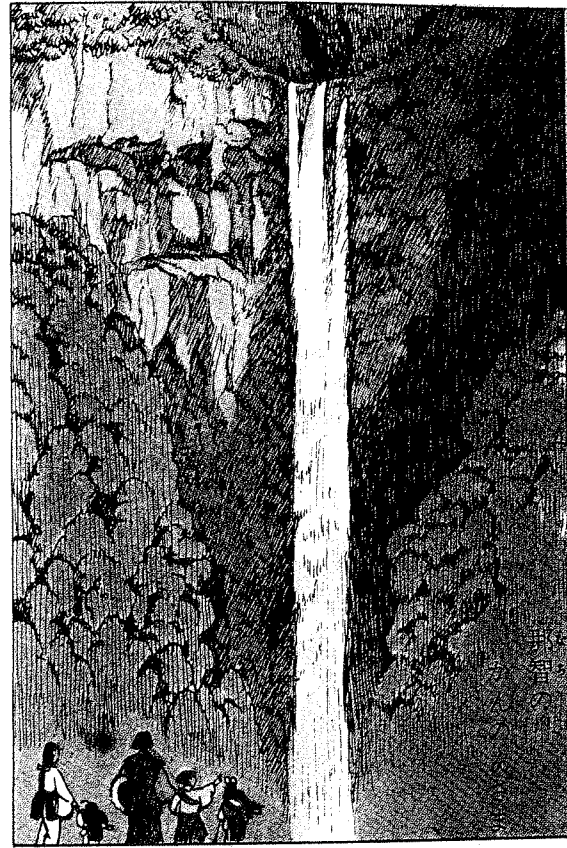
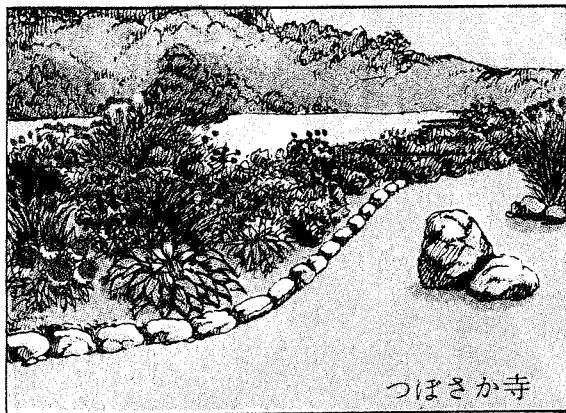
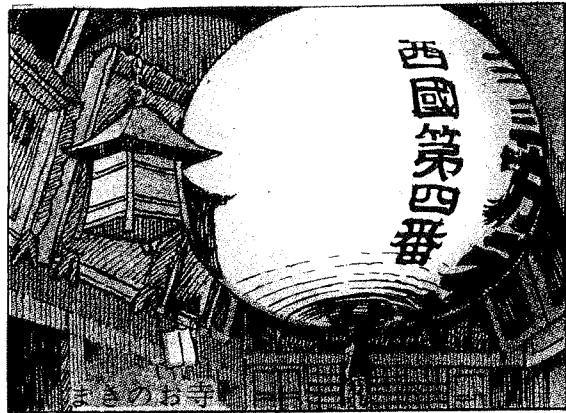


あの子の
おでこに
こぶが
できた

おかしな
おかしな
こぶだ
な



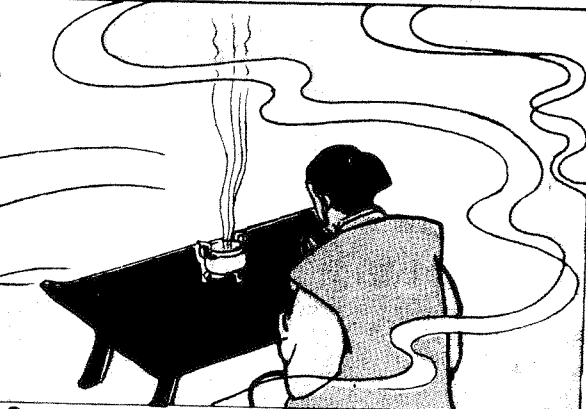
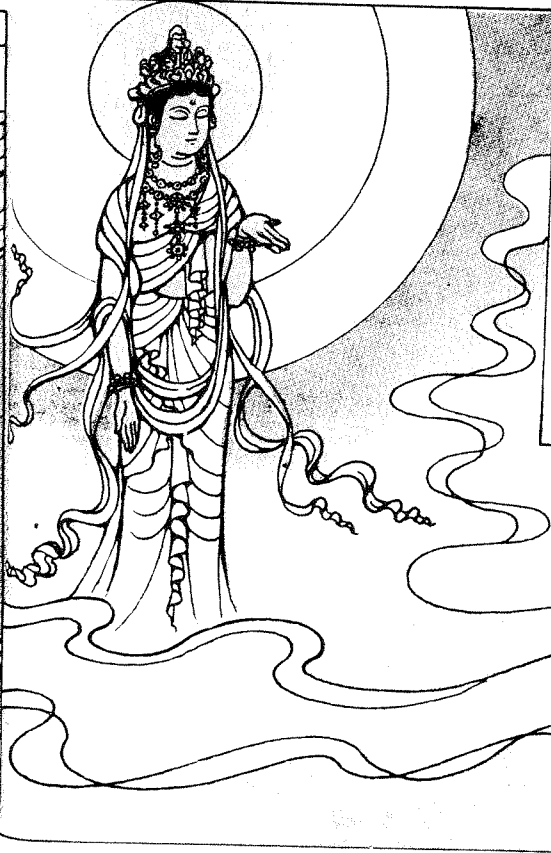
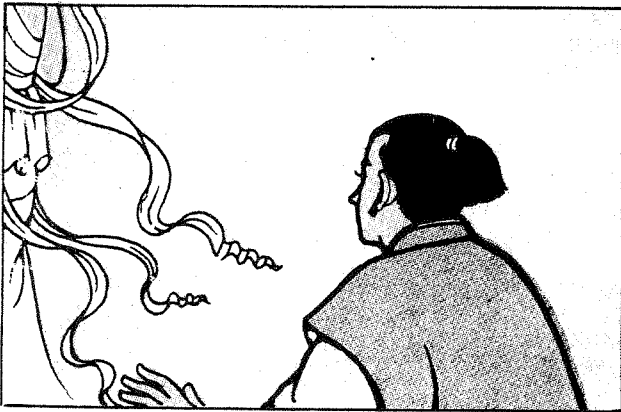
むかし
奈良の
まちに
かわい
いむす
めが
いま
した
ところ
が……



『ごくらくの中心は中山のかんのんさま』
 というむかしからの
 いいつたえがあります
 まいとし八月九日のよる
 西国三十三所のすべての
 かんのかんさまが
 星にのって
 ここ中山寺に
 おあつまりに
 なるといいます



さて
 いまから
 三五〇年
 ほど
 まえ
 江戸
 時代の
 はじめ
 のころ
 下左近
 という人
 が
 いました



おたすけ 千日まいり

— 心の目をひらけ —

おたすけねいたします
極楽浄土ははるかにとおいところと
きいておりますが、いま目のまえに
浄土をおがめますのは、どうい
うわけでしょう………

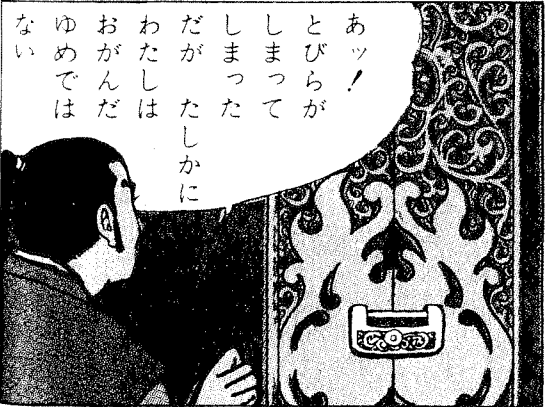
これこそおまえが
いままできれいな心一すじに
かんのんさまを信心してきた
からです。そのきれいな心が
そのま
みほとけの
おすまいになる
浄土となつて
いまここに
あらわれました
心のきれいな人は、けがれのな
みほとけの道をあゆむことができ
みほとけのみ名をとるものは
みなすくわれます。極楽浄土と
いっても、けつしてとくなく



壺阪の
かんのんさまは
桓武天皇さまの
おん目のわずらいを
おなおしなされた
ありがたいかんのんさま
わたしの目も、せめて
よるとひるの
くべつ
つくよう
に………

おたすけ
ください
なむ
かんのん
さま

この
ありが
たい
ありさま
をつまや
子に



あッ！
とびらが
しまつて
しまつた
だが、たしかに
わたしは
おがんだ
ゆめでは
ない

こうして
まいにち
おまいりを
つづけて
きょうが
千日め



かならず
みえるよう
になります
とも

いやいや
なんの
しるしも
なくて
このまま
つづけて
も………



なにを
いうのです
もったい
ない



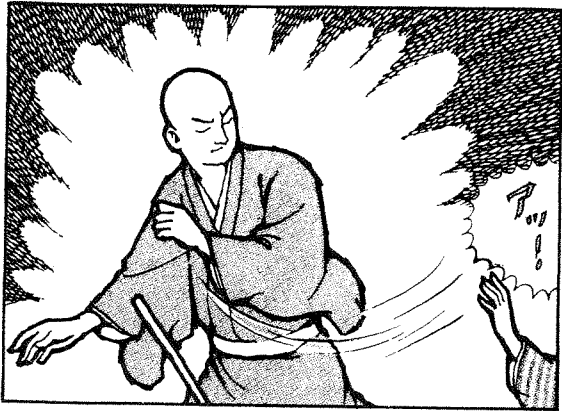
それからのち
左近とかぞくのもの
中山寺のちかくにすみ
一生をかんのんさまの
信心にささげました
まいとしこの日のよる
三十三所のかんのんさまが
中山寺にあつまるおすがたが
ちようど空とぶ星のようにみえ
るので、『中山寺の星下り』とい
います。またこの日におまい
りすると四万六千日おまいりし
たとおなじおかげをいただく
といわれます

さあ
さあ
きょうの
おまいり
を………



石が
あり
ます
きを
つ
けて





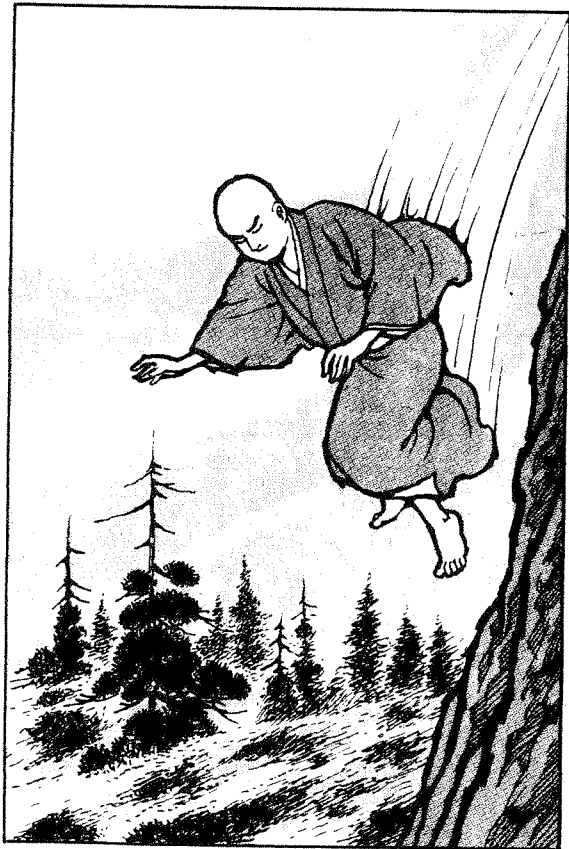
はや
まっでは
いけま
せん!!



千日の
『がん』が
あけても
この目が
あくとは
おもえぬ
わい



おさとはいつもやさしく
いたわってくれるが
このままいきていては
めいわくをかけるばかり



おまち
ください
さわい
ちさん!!
さらば
じゃ!!



おさと!!



どうか
なさい
まし
たか
?



たよりに
ならない
かんのん
さまに
ウロウロ
おまわりして
いるより



ああ
たいへんな
ことになった



さわい
ちさん
ころえ
ちがいを
おこしては
なりま
せん



きょう
まで
だまされて
おまわりし
てきたが
どうやら
みぶんの
たかい人に
きいて
わしの
ような



わたしも
いきては
いられ
ない
おゆるし
ください
かんのん
さま



さわい
ちさん
を
しなして
しまった



エーイ
うるさい
わい!
いっそ
しんでしまっ
たほうが
いいわ



みぶんの
たかいひくいの
べつなく
おまもりくださる
のが かんのん
さまのおこころ



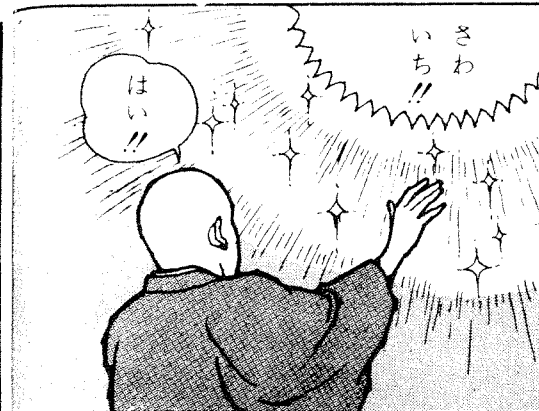
ありがとうございます
とうござい
ます
かんのん
さま

千のお目と
千のお手で
おすくいださ
るかんさんさ
ま……
もったいなく
もわくちなさ
らうしました



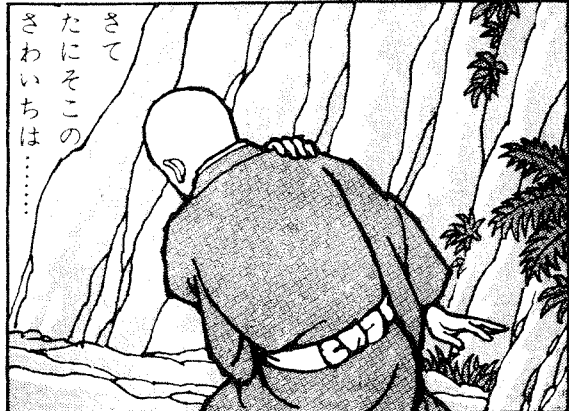
ふたりとも
いのちは
たすかり
けがも
せず

そのうえ
めくらに
なるまえより
はつきり
みえて
……

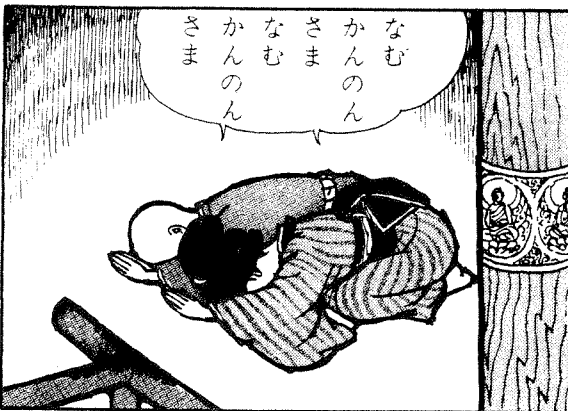


さわ
いち!!

はい!!



さて
たにその
さわいちほ……



なむ
かんのん
さま
なむ
かんのん
さま



おゆるし
ください
かんのん
さま……
おさとよ
こんやは
お堂におこ
もりして
おれい
もうし
あげま
しょう



ここは
みを
なげた
たにの
そこだ
はやく
おさとに
しらせ
よう
おさと



あッ?
みえる!!
目がみえ
る……
いまのは
たしかに
かんのん
さまの
おこえ



なむ
かんのん
さま
なむ
かんのん
さま



さわいちよ
たとえおまえの目が
みえるようになっても
この世のなかはくろうの
つきないところゆえ
ますますみほとけを
うやまい いのちを
大切にくらすよう



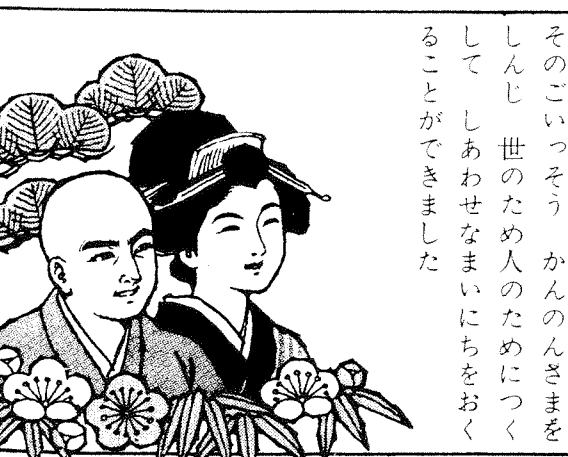
しんでは
いまいな
おさと!!



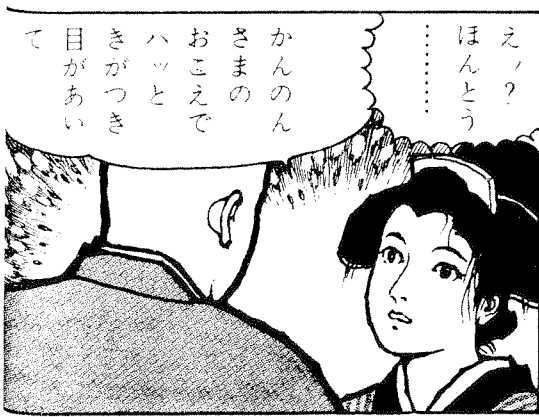
わしの
あとを
おつて
とびこ
んだか
おさと



アレ
あそこに
たおれて
いるのは
?



目が見えるようになるといっしょ
に 心の目のひらけたさわいちほ
そのいっせう かんさんさまを
しんじ 世のため人のためにつく
して しあわせなまいにちをおく
ることができました



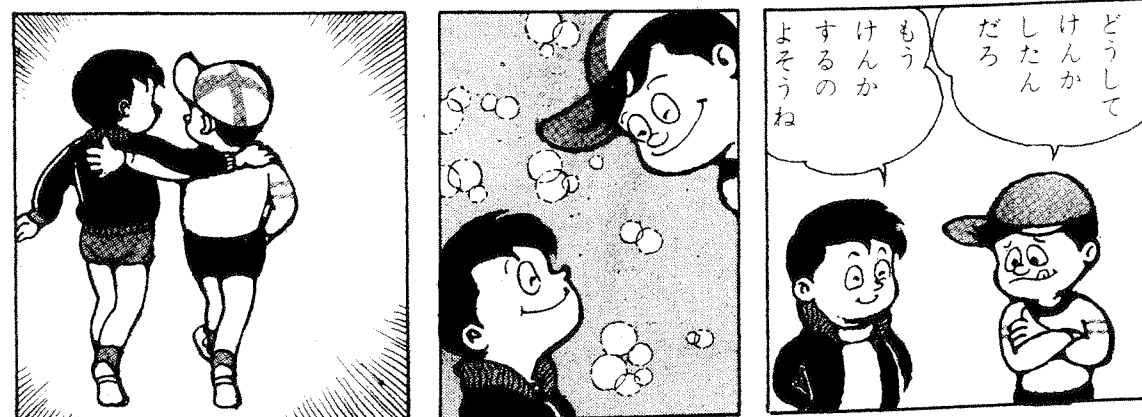
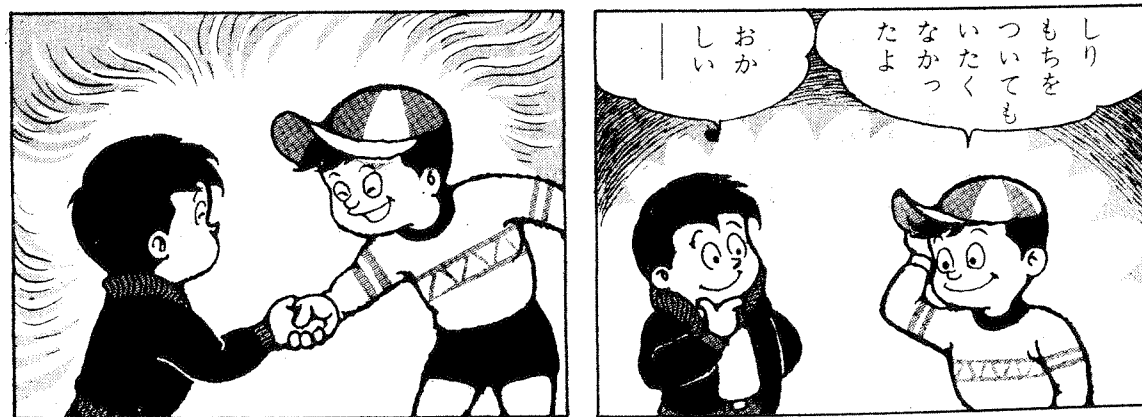
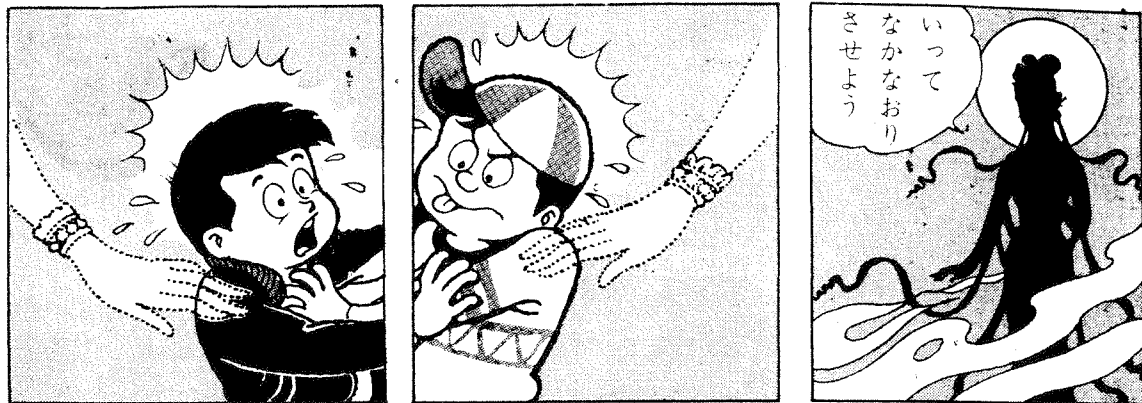
えッ?
ほんとう
……

かんのん
さまの
おこえで
ハツと
きがつき
目があ
いて



あッ
さわ
いち
さん

おさと
よろこべ
目が
みえる!!



東に西に

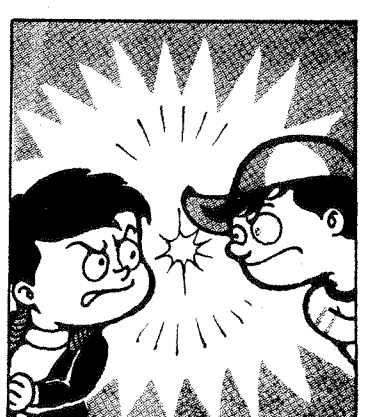
—かんのんさまのお心—



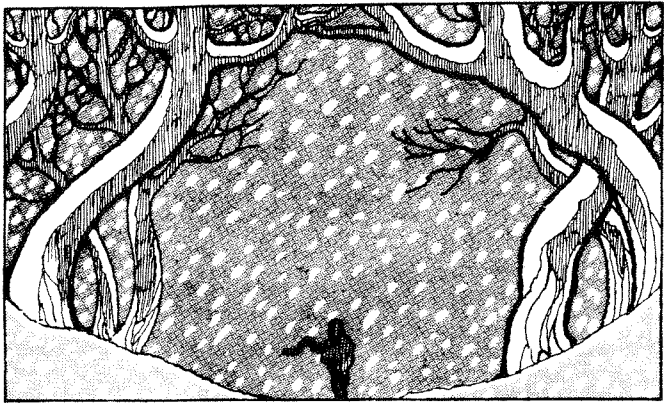
東ニ病氣ノコドモアレバ
行ツテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ
行ツテソノ稲ノ束ヲ負ヒ

みなさんもよく知っている
宮沢賢治の詩『雨ニモマケズ』は
雨風もいとわず 東に西にと
とびあるいて わたくしたちに
すくいのお手をさしのべてくださる
かんのんさまのお心を
詩の心といただいています
—なむ かんのんさまと
となえる人はもちろん
すべての人のただししい願いをききいれ
悲しみや苦しみをとりさり そのうえ
なにものおおそれず生きぬく力を
あたえてくださる ありがたい
かんのんさまのお慈悲であります

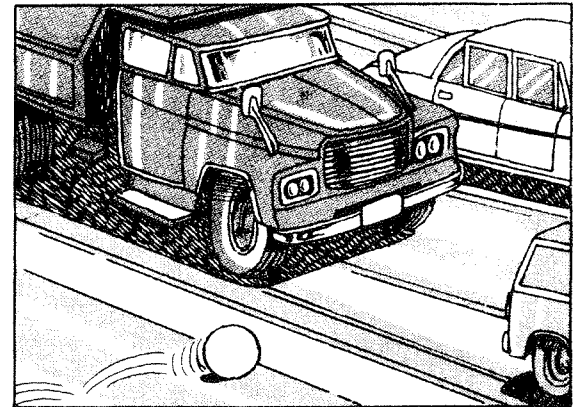
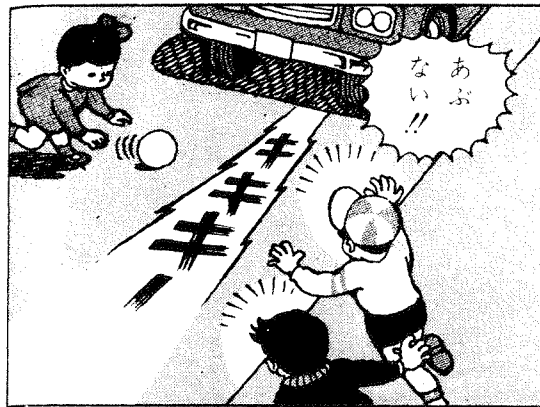
雨ニモマケズ
風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
丈夫ナカラダヲモチ



あせ
汗かきかんのんさま



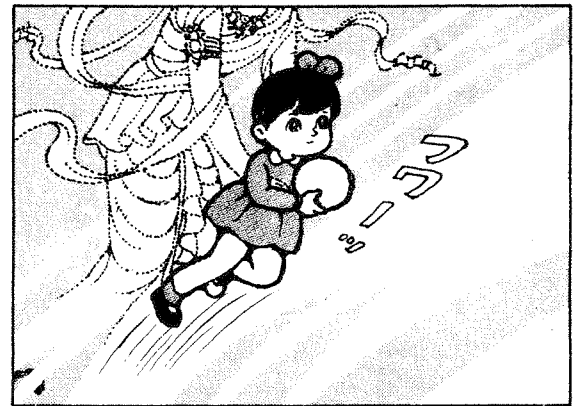
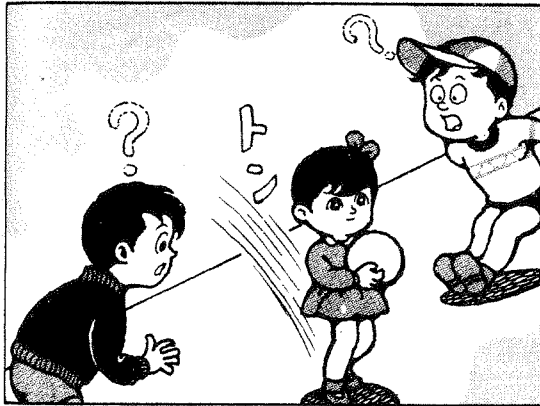
はて？
かんのん
さまと
よぶ
こえ
が？



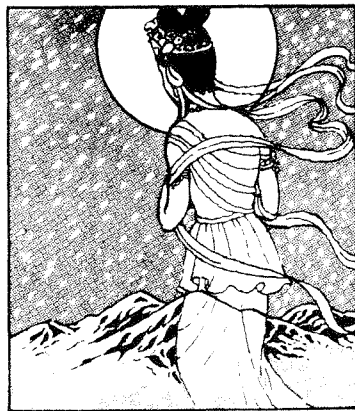
かんのん
さま!!
たすけて
ください



こまった
ときには
かんのん
さまに
おねがい
しなさいと
おかあ
さんに
いわれ
ていた



くる日
もくる日
しいそが



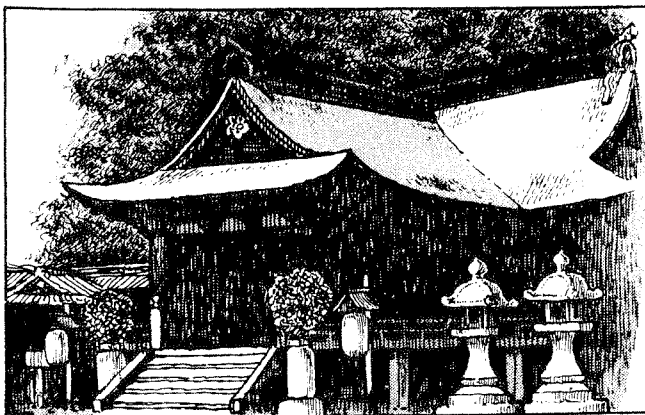
あッ
山で
こどもが
よんで
いる
すぐいっ
てあげ
よう



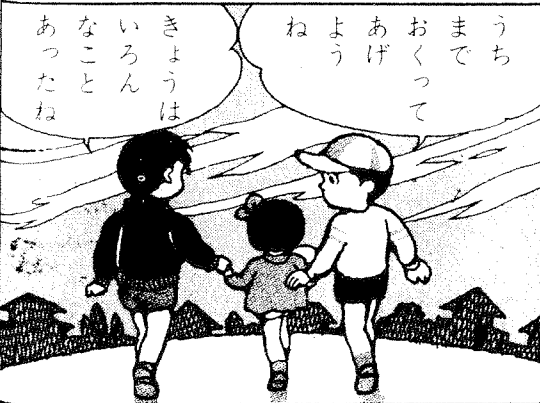
でも
ふし
ぎ
かせに
ふかれた
みたい
に
ホワ
ン
とこ
こ
まで
きた
ね



あ
あ
よ
か
つ
た
け
が
し
な
か
つ
た
?



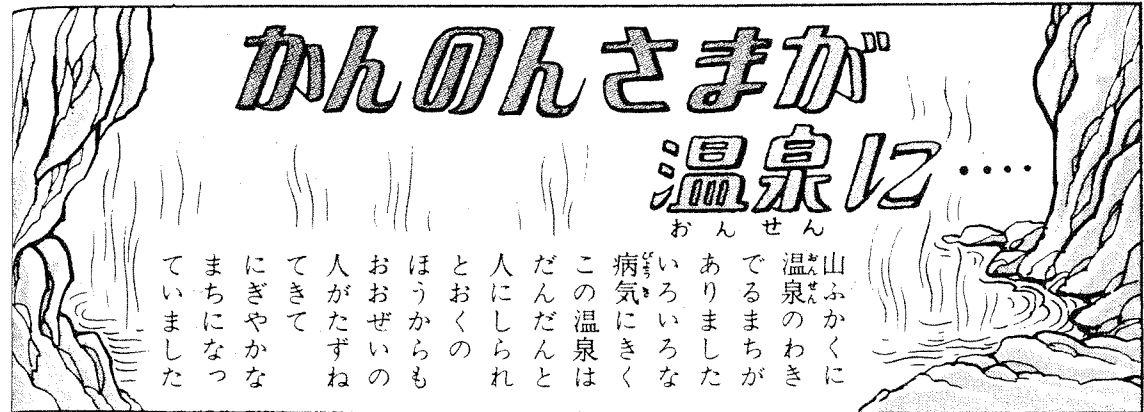
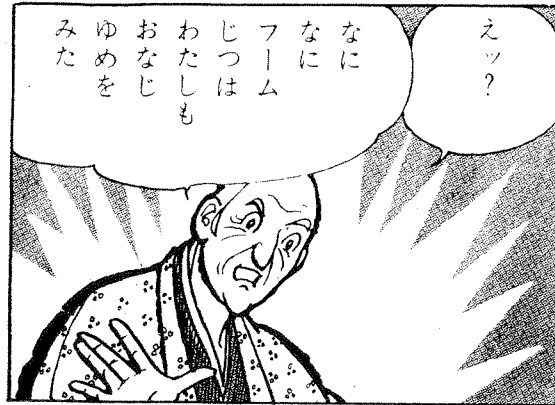
『汗かきかんのんさま』とよば
れて、人びとからあがめられて
いるかんのんさまがあります
岩間寺のご本尊です
よるになると、地獄を駆けめぐ
り、くるしむ人びとをすくって
おやりになるため、あくる日の
あさお寺におかえりのときには
あまりのいそがしさに、汗をな
がしておいでになるといいます



うち
まで
お
く
つ
て
あ
げ
よ
う
ね
き
よ
う
は
い
ろ
ん
な
こ
と
あ
つ
た
ね



あ
ぶ
な
い
か
ら
こ
こ
で
あ
そ
ん
で
は
だ
め
よ





さあ
いよいよ
おひると
なりま
したぞ



おおかみに
おそわれて
尻をかまれ
そのきずを
なおすため
に
ここへきた
までのこと



これは
なだかい
尻くらい
かんのん
さま

いよいよ
ありがたい
もったい
ない



かんのん
さまだ

ゆめの
おつげの
とおりの
おすがた

なむ
かんのんさま
なむ……



みなさん
おがむの
はもう
やめてく
ださい



わたしは おやから
馬頭かんのんさまの
もうし子ときかされた
ことがあります



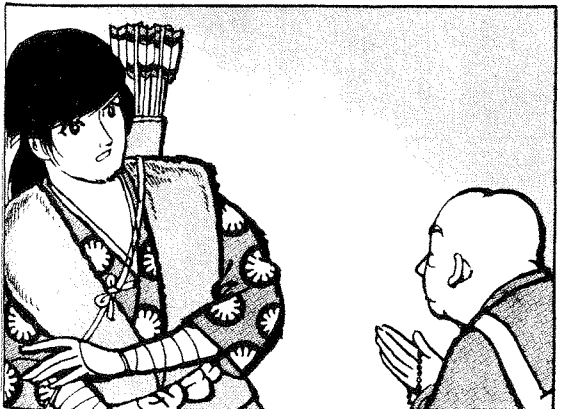
おまもりの
ご本尊さまは
この頭のなかに
ありなまえも
馬頭蔵と
つけられ
ました



なむ
かんのん
さま

なむ
かんのん
さま

ありが
たい



けれども
ちいさい
ときから
いきものを
ころすのが
すきで
どれほど
つみを
かさねて
きたこと
か……



おやの信心の
おかげで
いままでは
かんのんさまに
おまもり
いたが



いったい
これは
どうした
ことです
なぜわたし
をおがむ
のです

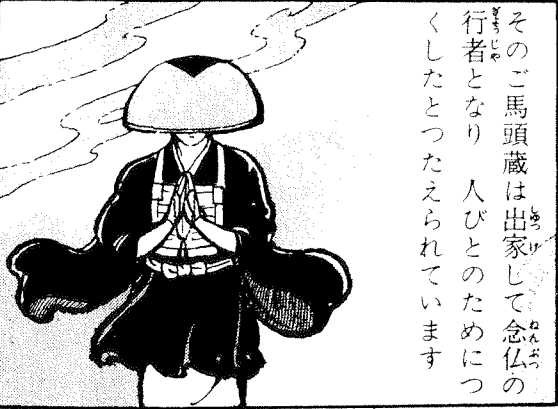
ああ
ありがたい
ありがたい



わたしは
かんのんさま
ではありませ
ん ただの
りょうし
です



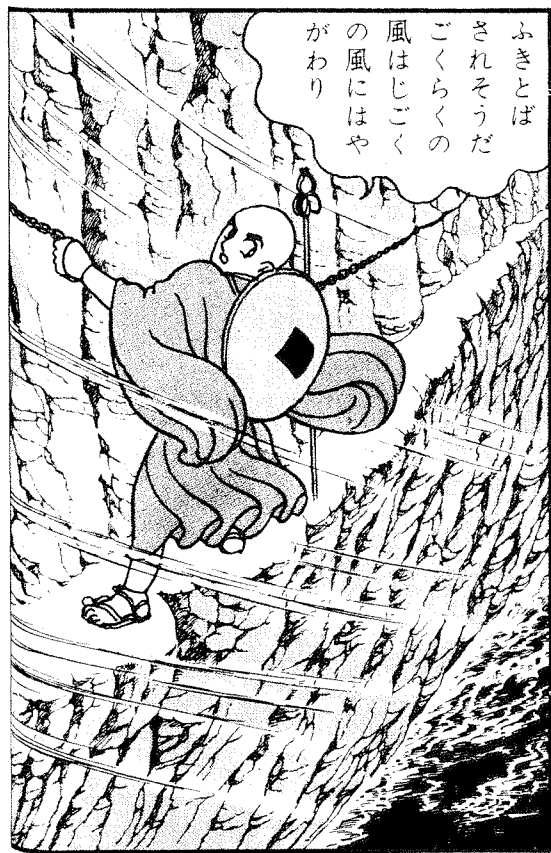
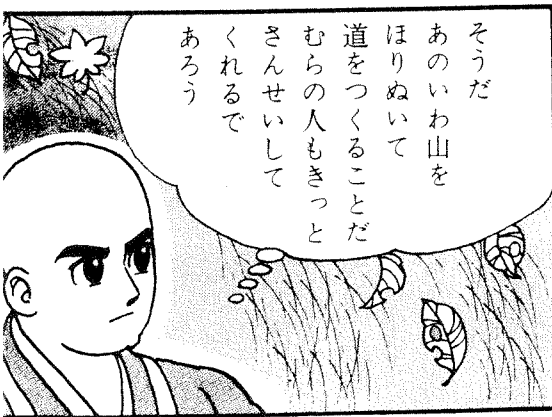
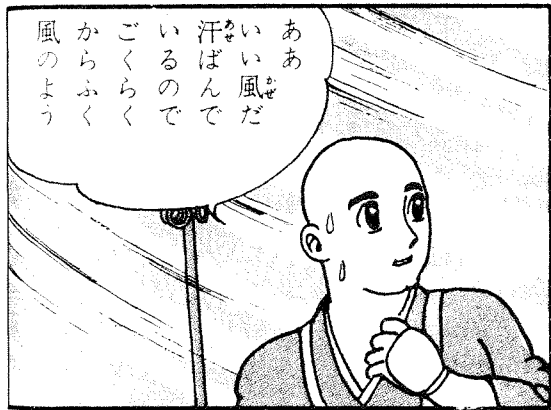
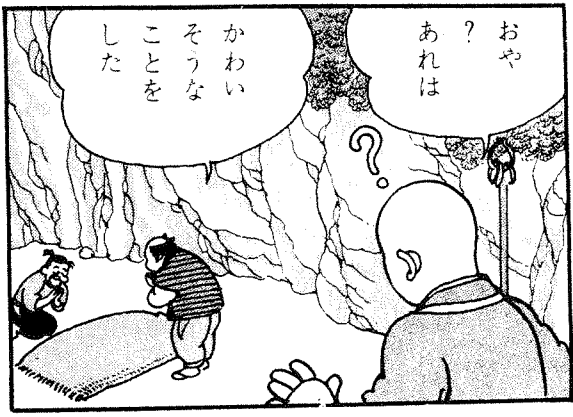
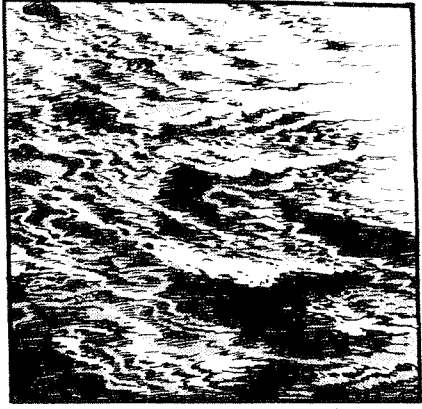
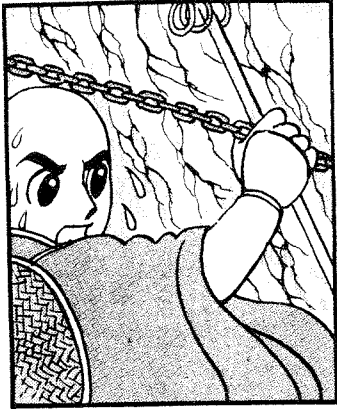
こうして
弓矢をおって
きょうかぎり
りょうしをやめ
ます みなさん
ありがとう
ございました



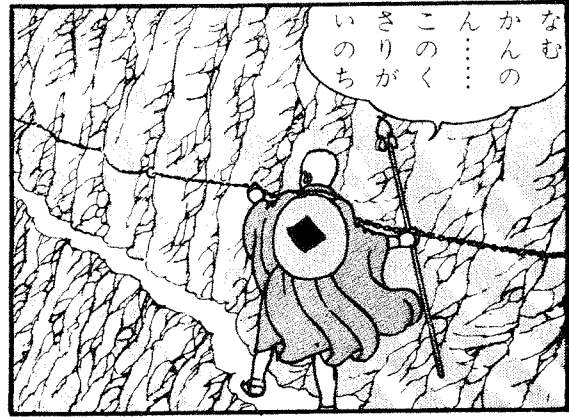
そのご馬頭蔵は出家して念仏の
行者となり 人びとのためにつ
くしたとつたえられています

ひとすじの道

みち



このぼうさんはいわ山をほりぬくことをむらの人びとにといてあるきました けれども人びとからかえってきたことは……





人がきいたら
きちがいと
いうであろう
だが……
このままでは
くさりわたしで
なんにんもの
人がしんで
いく



人をたよった
のはわたしの
まちがいで
あった



まだ
つづけて
ほってる
なあ……
一ねん
たつても
あれだけ
かい



やっぱり
きちがい
ぼうず
だな

しぬまで
ほったつて
たかは
しれて



なむ
かんのんさま
なにとぞ
了海のこの
ねがいに
お力を
おかしくだ
さいます
よう



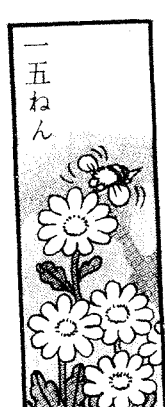
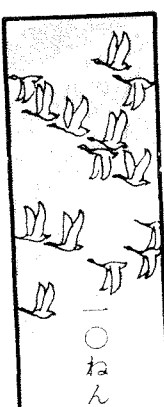
了海となる
ぼうさんは
ひとりでいわ山を
ほりはじめ
ました



人びとはきこえよがしにの
しつていきますが 了海はも
くもくとほりつづけています



わたしはむかし
人をころしている
それも
じぶんの
つかえる
あるじを
ころしているのだ
つみほろぼしに
たとえ しぬまで
かかっても
やりぬくぞ



やがてむらの人びとはきにも
かけなくなり 一五年とい
としつきがながれました

ひさし
ぶりにいって
おどろいた……
半分ほどひとり



あれ？
あきれた
あのぼうず
いわ山を
ほりはじめ
たぞ

フン
どうせ
二・三日で
おてあげ
だよ



むら人がわらおうと
ばかにしようと
しらぬかお
で……

なむ
かんのん
なむ
かんのん



はじめは
きちがいかと
おもったが
りっぱな
ぼうさん
なんだ

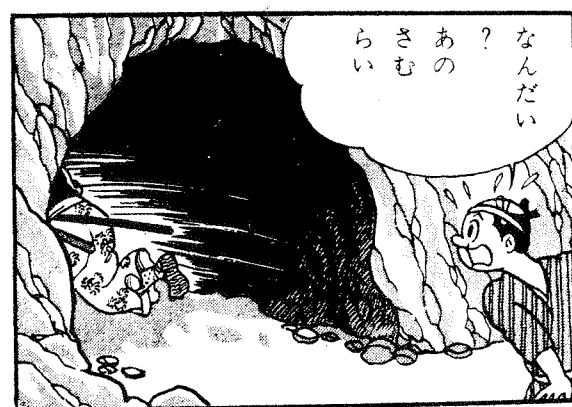
いま
おもうと
はずかしい

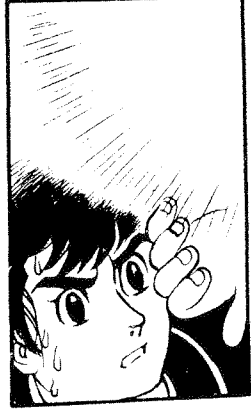
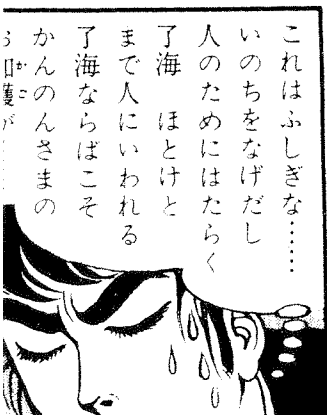
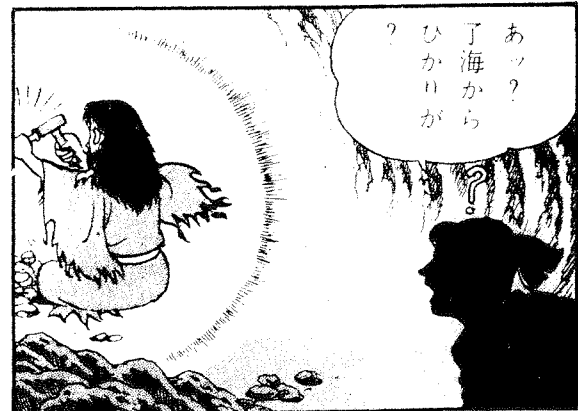
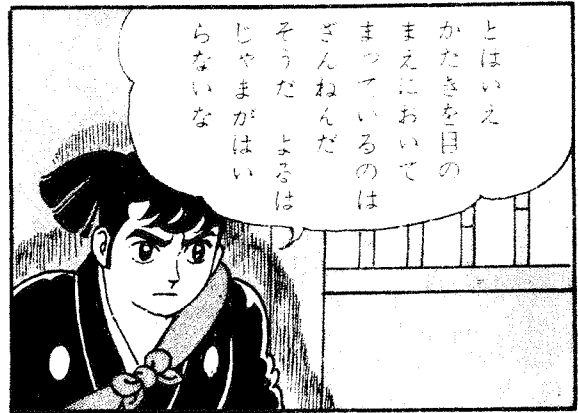


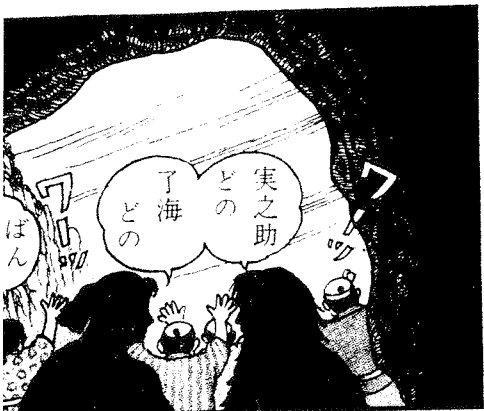
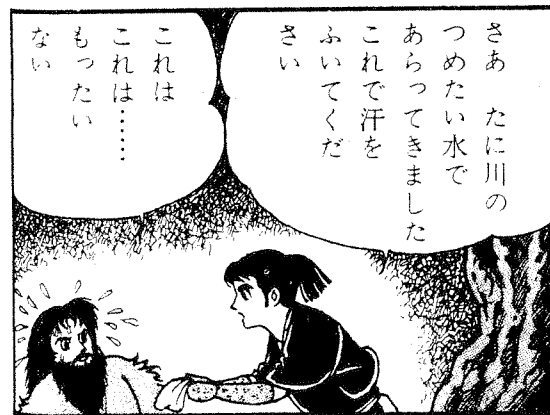
りっぱな
おぼうさんと
わかったからは
みんなでおてつ
だいをして
一日もはやく
道をつく
ろう

すぐ
いこう

さん
せい







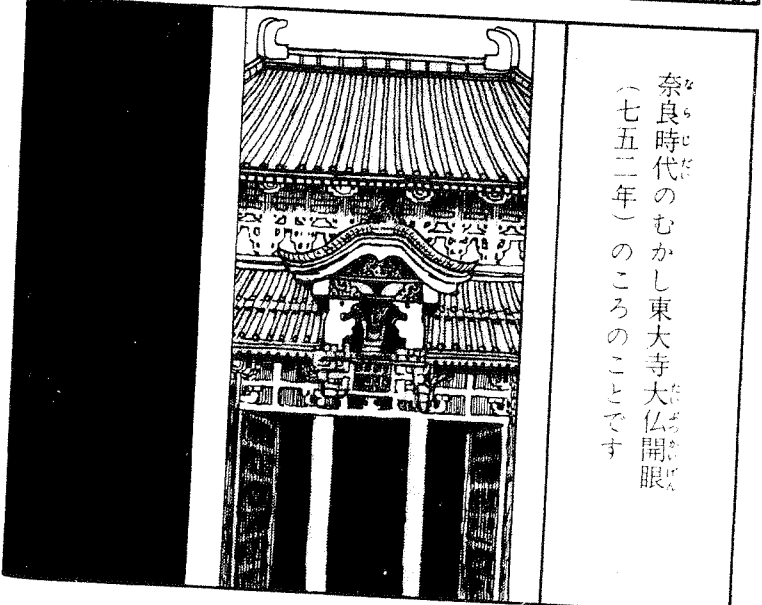
かんのんさまのお方にすがって
かたいわ山をほりぬき つくりあげた
ひとすじの道は とうといみほとけの道
へそのままつづいております
いつの時代になっても 心をうたれる



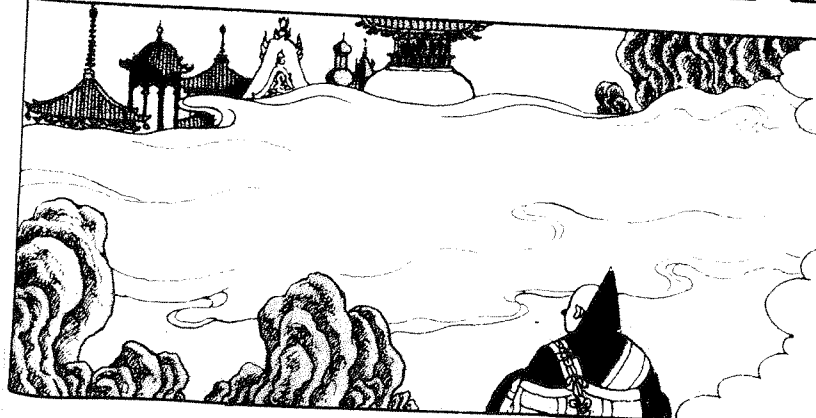
お水取り

ご開山良弁僧正のおでしに
実忠さまとうかたがいま
した ある日かさき山に
でかけた実忠さまは道をま
ちがえて山おくへまよいこ
んでしまいました

まいとし三月の一日から十四日までの
あいだ 東大寺二月堂でいとなまれる
十一面悔過の法要は『お水取り』あるいは
『おたいまつ』の名でひろく知られています
二月堂の十一面かんのんさまに一年かんにわ
たっておかした過ちや罪をおわびし おゆる
しをねがうとともに 人びとの幸福と世界の
平和をいのる法要です
いまから一二〇〇年あまりまえにはじまり
一回もやすむことなくつづけられて
いまもさかんにおこなわ
れています



奈良時代のむかし東大寺大仏開眼
(七五二年)のころのことです



はて
ここは
どこか？
みごとな
たてものが
ならんで
いる



ここは
観音院
……



みろく
ほさつさまの
お浄土に
ちがいない
おまいりして
あるこう



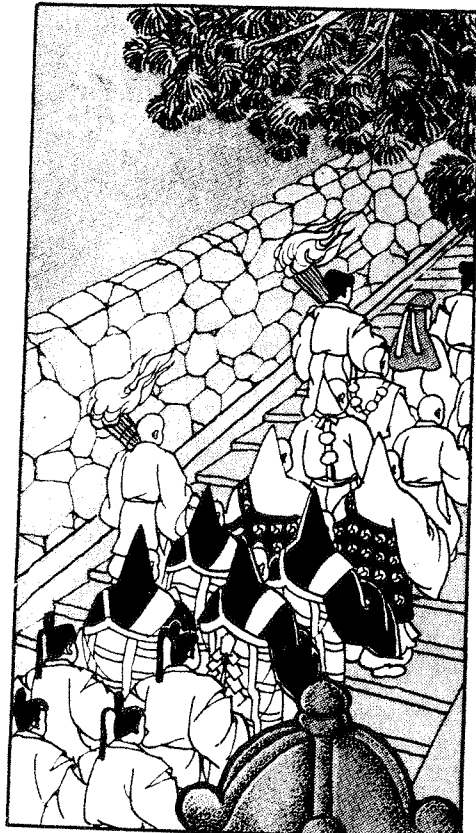
めずら
しい行を
してい
る……



これによつて
十一面かんの
さまに 罪の
おゆるしを
ねがうの
です



わたたくしは
人間界から
まいりました
もの……
ただいまの
ご法要は
十一面悔過
の行といひ



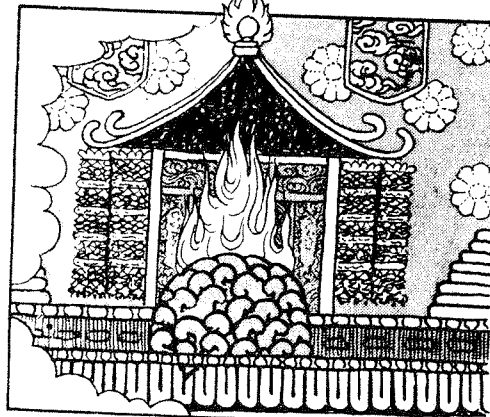
法要のはじまるまえに僧たちが
うける『おはらい』のようすを
うかがっているものがあります

いよいよ
はじまる
ぞー

さあ
でかけ
よう

これをあいずに
天狗さん
たちが風
のつて
四方八方
からあつ
まっつて
くるとい
われ

『おはら
い』を
『天狗よ
せ』とも
よんで
います



大かんのんさまと小がんのんさま
まの二つのご本尊に大きな灯明
があげられます

天上のぼさつさまたちの行を
とりいれた十一面悔過の法要が
十四日かんつきつきとつとめ
られていきます

かん
じぎい
ぼさつ

なむ
かん
じぎい
ぼさつ

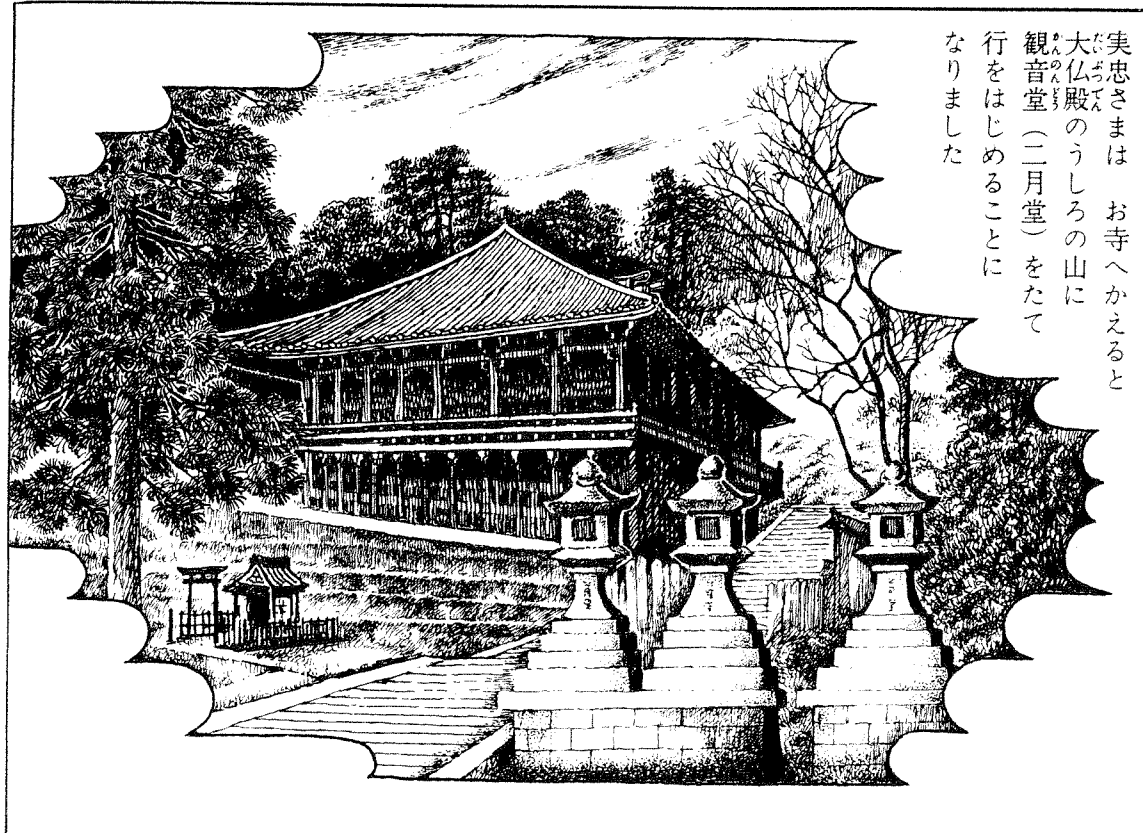
なむ
かん
じぎい
ぼさつ

なむ
かん
じぎい
ぼさつ

もつともな
ことながら
天上の一日は
下界の四〇〇ねん
にあたるゆえ
とてもむり
でしょう

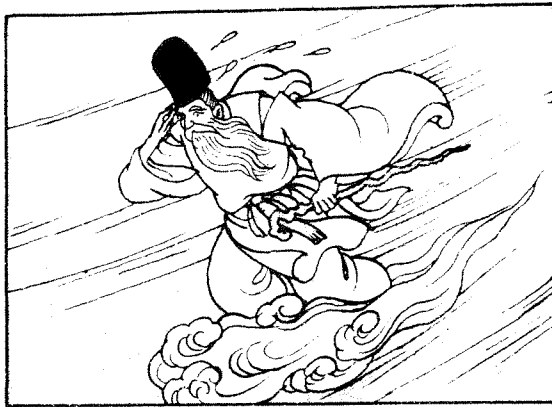
それでは
はしつて
この行を
つとめさせて
いただきます

それは
ありがたいこと
この行を わたくし
ども人間界にも
とりいれさせて
いただきます
おもしろい



実忠さまは お寺へかえると
大仏殿のうしろの山に
観音堂（二月堂）をたて
行をはじめること
になりました

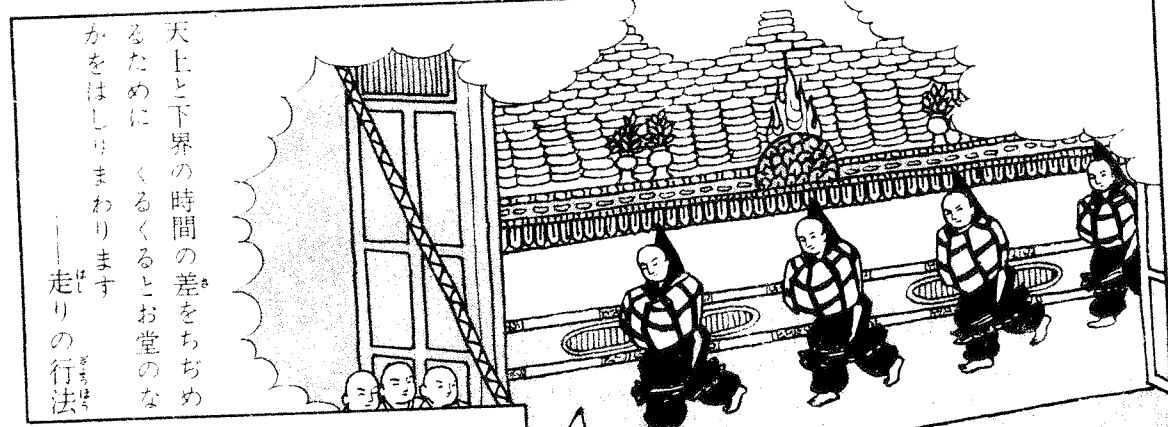
とくべつの法要なので 行を
つとめる僧たちは けがれを
とるため『別火』といって
食事などのかまどの火を別に
しておこもりをし 心とから
だをととのえておきます



おわびの
しるしに
お堂のわきに
きれいな
清水一香水を
さしあげ
ましよう



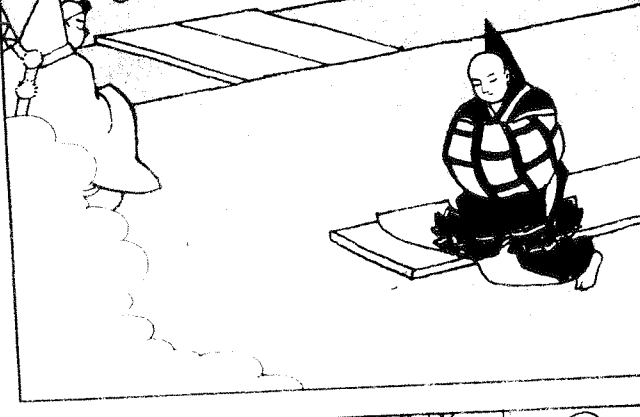
お堂にのぼる僧たち
の道あかりに6メー
トルあかりたいまつ
がともざれます
おたいまつ
おたいまつ
の火の粉をあび
ると やく
よけになる
と人びとに
よろこば
れてい
ます



天上と下界の時間の差をちぢめ
るために くるくるとお堂のな
かをはしりまわります
走りの行法



さて実忠さまは行をつとめる
あいだ いろいろなかたをお
まねきすることになりました
そうだ
日本
しゅうの
神さまも
おまねき
しよう



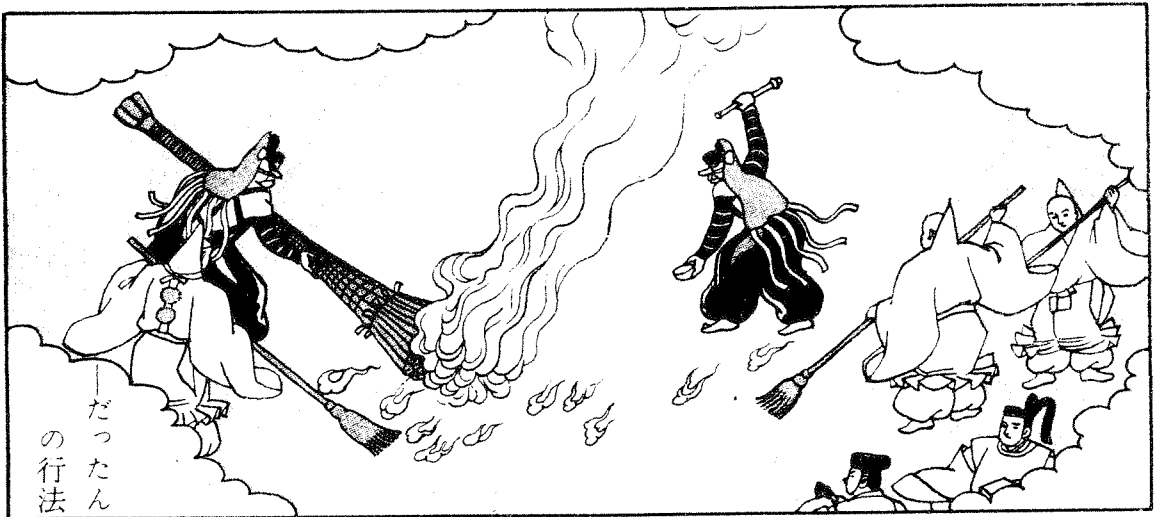
きょうは
なにか
あった
かな...
そう...
ところで 若狭のくにに 釣の
すきな神さまがおいてに
なりました



七日には小がんのんさまの厨子
もおてましになります
十二日には大たいまつもてて
お水取り・だったんの行法もつ
とまります



小がんのんさま出御



だったんの行法

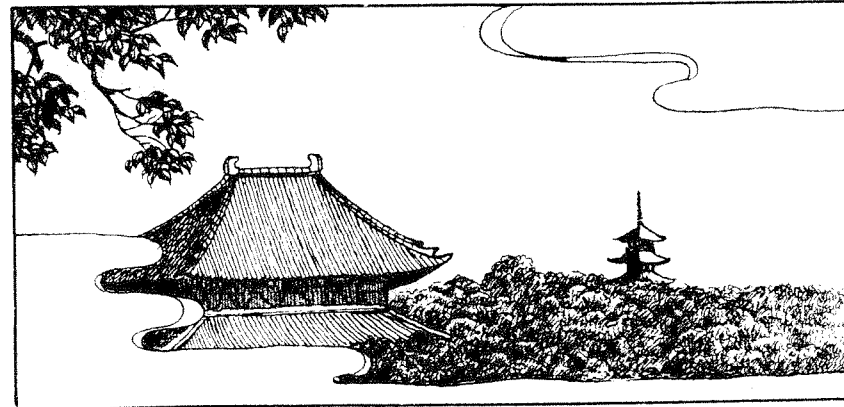


だったんの行法は天人が
お堂にあまくだつてふ
しぎな舞をまつたのを
そのとおりにうつしとつ
たものをつたえられてい
ます

さて十一面悔過の行法は
旧暦二月(いまの三月)
におこなわれる法会なの
で修二会ともよばれます
また修二会をおこなうお
堂ということから 観音
堂もいつしか二月堂の名
でしられるようになりました
きょうも 一二〇〇年ま
えに 実忠さまがはじめ
られたときと ほとんど
かわらぬ行がつとめられ
ています



十四日かんの法要がおわり
身も心もきよめられました
つめたい風につて天狗さ
んたちも とおくのほうへ
いつてしまったのでしやう
か やつと ほんとうの
春がきたようです



この本を手にされる方々に

観音さまのおはなし

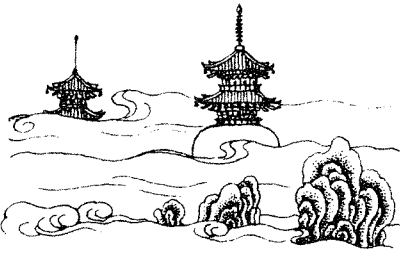
やさしい観音さま

ひとくちに観音(かんのん)さまと申しますが、その
御名をきいただけで、おやさしい、わたくしたちの前に、
手をだされて早くいらっしやいと、抱きかかえてくださ
るような感じがするでしょう。

かんのんさまは おやさしい
かあさまのような御姿
いつきても おがんでも
かあさまのように思います

といううたのように、ほんとうにやさしいお方でありま
す。

観音というお名前のほかに、観世音(かんせおん)と



申すこともありますし、あるいは観自在菩薩(かんじざい
いぼさつ)と申したり、もつとむずかしい御名だと、施
無畏者(せむいしや)、大悲大慈王(だいひだいじおう)
救世者(くせいしや) 救世菩薩(くせぼさつ) 普門菩薩
(ふもんぼさつ) 蓮華手(れんげしや)など、いろいろの
があります。

こうしたお名前は、その昔インドのことはを中国で訳
したときのお名前でありますから、それをいろいろと中
国のことばで訳したもので、時代や、その訳した人の解
釈の異なりで、このように変ったのだといえます。

そこでわたくしたちに、一ばんわかりやすい、そして
親しいお名前は、ということになりますと、観音さまと
か、観世音とか申しあげるのが、よくわかるような気が
いたします。

観音さまのことを観音菩薩(ぼさつ)と申しますが、
菩薩という方は、仏さまにおなりにならない方をいうの
で、いつもわたくしたちのまわりにいて、苦しんでいる
人間をすくつてあげようと、手をさしのべてくださって
いる方なのであります。

そこで観音ということばですが、音を観ると書きます。
また観世音ということばなどをよくみますと、世音(せ
おん)を観ると解釈されます。この世音というのは、世

のなかの市、いかえますと、人間の苦しみ、なやみなどという、世のなかの出来ごとをよく観るといふことで、この場合の観るといふ意味は、よく感じるとか、よく聴くといふことの意味になります。

てありますから、世のなかの苦しみをとり除くために、あなたがいとお慈悲を垂れてくださるといふことなので、その苦しみをとり去る働きが、観音菩薩の働きであるといえましょう。

こいつた働きから、観音さまには、いろいろと名がつけられたので、人びとを救ってくださるための慈悲の姿のあらわれと思います。

観音さまのお名前

観音さまは、大衆と結びつく働きから、ほかの仏さまや、菩薩さまのように、一つの名前では信仰する人が承知しなかつたのです。

そこでいろいろな名前がつけられました。どれくらいその名前があるのかを記してみますと、

◇聖 観 音 この観音さまは、正観音ともいいますが、観音さまといいますが、ほとんどが聖観音さまであり、本尊さままで、聖徳太子が自分とおなじ背丈の観音さま

をつくり、世のなかのすべての人びとの苦しみを救いくださいと、この観音さまの前で誓われたという伝説があります。それでこの観音さまを救世(くせ)観音さまともいいます。この聖観音さまには化仏(けふつ)と申しまして、小さな仏さまの坐像か立像のある宝冠(かんむり)をかぶっているのが特徴であります。

◇十一面観音 この観音さまは、頭の上の方に顔が十一あるのです。これは人間の欲望に十一あるので、それをとりのぞいて、十一の極楽に生れるようお救いくださるといふ意味であります。

その十一の顔をみますと、正面の三つはいつくしみの姿、左の方の三つはいかりの姿、右の方の一つは白い歯をだしておこっている姿、後ろの一つは大きく口をあけて笑っている姿、上の一つは普通の顔といふことです。そしてこの十一面観音さまは、左手に水瓶をもち、右手に垂れた指をのびし、てのひらを外にむけた姿が、一番多いといわれます。この十一面観音さまの信仰は、聖観音さまの信仰について多く、奈良の法華寺というお寺の本尊は、十一面観音さまで、光明皇后をモデルにしたといわれています。

◇千手 観 音 観音さまの背中の方からたくさん手が出ている観音さまのことをいいます。千手という

千手から、千本の手があったといえますが、それを略して、左右に二十一本ずつ合計四十二本の手をつけています。もちろん、昔の奈良市唐招提寺の観音さまはあつんと、千本の手をつけていました。この千手観音を千体安置したのは、京都の三十三間堂があります。そしてこの千手観音のてのひらには、いろいろな道具をもちっていますが、これは観音さまのお慈悲の働きをあらわしているのです。千本の手があれば、それだけ仕事が多くできますから、それとおなじように観音さまの手もたくさんあればあるほど、人びとの苦しみを救うことができるという意味であります。

◇馬頭 観 音 (ばとうかんのん) 観音さまはみなやさしい顔でありますのに、この馬頭観音はこわい顔をしています。そして頭の正面に白い馬の頭をいたっています。なぜこわい顔をしているのでしょうか、それには大きなわけがあります。と申しますのは、人間のなかでも、やさしい顔をしておればいふことを聞く人もありますが、いふことを聞かない人には、逆におこつてみることも一つの方法でしょう。

観音さまもおなじことで、このようなおこつた顔をしておいて、ほんとうの仏のお心をしらしめようとされたためであります。馬頭観音さまも自分の心のなかの欲望

をあらわして、それを焼きつくすために、このようにいつくしみに満ちた観音さまを、いかりの姿であらわしたものと いえます。この観音さまで名高いのは、九州の築紫観世音寺に、鎌倉時代の観音さまが、巨大な木で刻まれています。

◇如意輪観音 人間の苦を救うのはもちろんですが、出世の功德(くどく)をもっている観音さまで、普通一面六臂(び)の姿が多いのです。顔が、つて、腕が六つもあるといふことです。それぞれの腕には、一つ一つの働きがあり、右足は立て膝で、左の足裏を踏んでいます。このような姿は、如意輪観音さまだけではありません。この観音さまで名高いのは、大阪の観心寺、奈良の牽生寺などがあります。観音さまの身体は金色で、髪は宝珠(たま)でかざっているのが特徴です。

◇不空縑索観音 (ぶくうせんさくかんのん) この観音さまは大きなおなさけをもって、すべてのわずらわしさをとりさり、すべての人びとのねがいを満足さすといふことから、その名がおこつたといわれます。普通の姿は三つの顔、三つの目、四つの腕、あるいは六つの腕といふ姿です。

奈良東大寺三月堂、興福寺南円堂、唐招提寺、京都の広隆寺などの観音さまは、すばらしい冠をいただき、

西国巡礼歌

- 1 那智山青岸渡寺 如意輪観世音
和歌山県那智勝浦町大字那智山
ふだらくや岸うつ波はみくまのの
那智のお山にひびくたきつせ
2 紀三井山金剛宝寺 十一面観世音
和歌山県紀三井寺町
ふるさとをはるばるここにきみい寺
花のみやこもちかくなるらん
3 風猛山粉河寺 千手千眼観世音
和歌山県那賀郡粉河町
ちちはのめぐみも深きこかわ寺
ほとけのちかいたのもしの身や
4 横尾山施福寺 千手千眼観世音
大阪府和泉市横尾山町
みやまじや檜原松原わけゆけば
まきのお寺に駒せいさめる
5 紫雲山萬井寺 土面千手千眼観世音
大阪府藤井寺市藤井寺1丁目
まいるよりのみをかくるふじい寺
花のうてなむらさきのくも
6 壺阪山南法華寺 千手千眼観世音
奈良県高市郡高取町壺阪
岩をたて水をたえて壺阪の
庭のいさこも浄土なるらん
7 東光山竜蓋寺 如意輪観世音
奈良県高市郡明日香村字岡
けさみればつゆ岡寺の庭のこけ
さながらるりの光なりけり
8 豊山長谷寺 十一面観世音
奈良県桜井市初瀬町
いくたびもまいる心ははつせ寺
山もちかいかもふかきたにがわ
9 那智山法起院 御自作徳道上人像
奈良県桜井市初瀬町
こくらくはよそにはあらじわが心
おなじはちすのへだてやはある
9 興福寺南円堂 不空羅索観世音
奈良市登大路町
春の日はなんえん堂にかがやきて
三笠の山に晴るるうすくも
10 明星山三室戸寺 千手観世音
京都府宇治市三室戸
よもすがら月をみむろとわけゆけば
宇治のかわせにたつはしらなみ
11 深雪山上醍醐寺 准胝観世音
京都市伏見区醍醐山町
逆縁ももらさですく願なれば
じゅんてい堂はたのもしきかな
12 岩間山正法寺 千手観世音
滋賀県大津市石山内畑町
みなかみはいずくなるらんいわま寺
岸うつ波はまつかぜのおと
13 石光山石山寺 如意輪観世音
滋賀県大津市石山寺辺町
のちの世をねがう心はかるくとも
ほとけのちかいかもきいしやま
14 長等山三井寺 如意輪観世音
滋賀県大津市園城寺町
いでのるやなみまの月はみい寺の
かねのひびきにあくるみずうみ
15 新那智山観音寺 十一面観世音
京都市東山区今熊野泉涌寺山内町
むかしより立つともしらぬいま熊野
ほとけのちかいかもあらたなりけり
16 音羽山清水寺 土面千手千眼観世音
京都市東山区清水坂
まつかぜやおとわのたきの清水を
むすぶこころはずすしかるらん
17 補陀洛山六波羅蜜寺 十一面観世音
京都市東山区松原通大和路東入
おもくとも五つの罪はよもあらじ
ろくはら堂へまいる身なれば
18 頂法寺六角堂 如意輪観世音
京都市中京区六角通烏丸東入
わがおもう心のうちは六つのかど
ただまろかれといのなるりけり
19 行願寺草堂 千手観世音
京都市中京区寺町通竹屋町
花をみていまは望みもこうどうの
庭のちくさもさかりなるらん
20 西山善峰寺 千手千眼観世音
京都市左京区大原野小塩町
野をもすぎ山路にむかう雨のそら
よしみねよりも晴るる夕立
21 菩提山穴太寺 聖観世音
京都府亀岡市曾我部町穴太
かかるとに生れあう身のあなうやと
おもわでたのめ十声ひと声
22 補陀洛山総持寺 千手観世音
大阪府茨木市総持寺1丁目
おしなべて高きいやしきそうじ寺の
ほとけのちかいたのまねはなし
23 応頂山勝尾寺 十一面千手観世音
大阪府箕面市粟生町
おもくとも罪にはのりのかお寺
ほとけをたのむ身こそやすけれ
24 紫雲山中山寺 十一面観世音
兵庫県宝塚市中山寺
野をもすぎ里をもゆきてなやまの
寺へまいるはのちのよのため
25 御獄山清水寺 十一面千手観世音
兵庫県加東郡社町平木
あわれみやあまねき門のしなじなに
なにおか波のここにきよみず
26 法華山一乗寺 聖観世音
兵庫県加西市坂本町法華山
春はな夏はたちはな秋はきく
いつたえなるのりのはなやま
27 書写山円教寺 如意輪観世音
姫路市書写書写山
はるばるとのはれば書写の山おろし
松のひびきもみのりなるらん
28 成相山成相寺 聖観世音
京都府宮津市宇成相寺
なみのおと松のひびきもなりあいの
風ふきわたすあまのはしだて
29 青葉山松尾寺 馬頭観世音
京都府舞鶴市松尾
そのかみは幾世へぬらんだよりをば
ちとせもここに松の尾のてら
30 竹生島宝厳寺 千手千眼観世音
滋賀県東浅井郡びわ村早崎竹生島
月も日もなみまにうかぶちくぶじま
ふねに宝をつむこちして
31 姨綺耶山長命寺 千手土面聖観世音三尊像
滋賀県近江八幡市長命寺町
やちとせやあゆみのながしきいのち寺
はこぶあゆみのながしきいのち寺
32 織山観音正寺 千手千眼観世音
滋賀県蒲生郡安土町大字石寺
あなとうとみちびきたまえ観音寺
とおき国よりはこぶあゆみを
33 谷汲山華嚴寺 十一面観世音
岐阜県揖斐郡谷汲村徳積
いままでは親とたのみしおいするを
ぬぎておさむるみのたにくみ

観音さまの信仰

観音さまの信仰は相当古い時代からで、扶桑略記（ふそうりやくき）には、推古天皇の御代に、兵庫県の淡路（あわじ）島に流れてきた香りを放つ木で観音像をつくつたという記録がありますし、また先にも述べましたように、奈良の法隆寺に救世観音を安置されたこともあります。

奈良時代に聖武天皇、光明皇后は全国に国分尼寺を建てられ、そこに観音さまを安置されたといわれています。

このように観音さまは、みんなの菩薩さま、大衆の救いの菩薩として、民間の信仰にどんどん食いこんでまいりました。それがために観音を信仰して、たくさん利益を得たということは数えられないほどあります。そのなかでも、奈良の長谷寺、滋賀の石山寺、京都の清水寺、東京の浅草寺、奈良の壺阪寺などには、いろいろな珍しい観音さまの利益や、功德（くどく）をあらわしたはなしがつたえられています。これらは観音さまのいつくしみと、おなさが、いかに大きいかをあらわすことになりました。関西地方の西国三十三所、関東地方の秩父三十三所などがあるのも、民衆の信仰と結びついているためであります。そして観音さまの信仰から、御詠歌というものが生れました。昔から若い人も、老人も、この御詠歌で、観音信仰をたたえたのであります。観音さまの信仰こそ、人びとの心を、やさしく、そして美しく育てるものでありましょう。（高橋良和記）

そのうしろに美しい光背（こうはい）があります。
◇准胝観音（じゆんていかんのん） この観音さまは人間の生命のことをつかさどる観音さまといえます。その姿は二つの腕、四つ、六つ、八つ、十、十二、十八、三十二、八十二などがあり、千手観音さまとよく混同されます。この観音さまは割合にすくないので、先の六つの観音さまにくらべて、信仰する人もすくないのではないのでしょうか。京都の上醍醐寺にこの観音さまがあります。

奈良時代に聖武天皇、光明皇后は全国に国分尼寺を建てられ、そこに観音さまを安置されたといわれています。このように観音さまは、みんなの菩薩さま、大衆の救いの菩薩として、民間の信仰にどんどん食いこんでまいりました。それがために観音を信仰して、たくさん利益を得たということは数えられないほどあります。そのなかでも、奈良の長谷寺、滋賀の石山寺、京都の清水寺、東京の浅草寺、奈良の壺阪寺などには、いろいろな珍しい観音さまの利益や、功德（くどく）をあらわしたはなしがつたえられています。これらは観音さまのいつくしみと、おなさが、いかに大きいかをあらわすことになりました。関西地方の西国三十三所、関東地方の秩父三十三所などがあるのも、民衆の信仰と結びついているためであります。そして観音さまの信仰から、御詠歌というものが生れました。昔から若い人も、老人も、この御詠歌で、観音信仰をたたえたのであります。観音さまの信仰こそ、人びとの心を、やさしく、そして美しく育てるものでありましょう。（高橋良和記）